

注3

**大学番号：54**

[平成30年度設置]

計画の区分： 学部の学科の設置

注1

**事前伺い**

京都工芸繊維大学 工芸科学部 応用化学課程  
及びデザイン・建築学課程

注2

**【事前伺い】 設置に係る設置計画履行状況報告書**

国立大学法人京都工芸繊維大学  
令和元年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名 総務企画課

職名・氏名 ソウムキカクガカシユニ 総務企画係主任 フカクサ 深草 マイ 舞

電話番号 075-724-7014

（夜間） 075-724-7014

F A X 075-724-7010

e-mail soumuki@jim.kit.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に

( ) 書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- 大学の設置の場合：「〇〇大学」
- 学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- 学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- 短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- 大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
- 大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- 大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」
- 通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 大学番号の欄については、平成31年4月2日付事務連絡「履行状況報告書の提出について(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

# 目次

## 工芸科学部

＜応用化学課程＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	6
3. 施設・設備の整備状況、経費	23
4. 既設大学等の状況	25
5. 教員組織の状況	27
6. 附帯事項等に対する履行状況等	40
7. その他全般的事項	41

＜デザイン・建築学課程＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	47
2. 授業科目の概要	52
3. 施設・設備の整備状況、経費	71
4. 既設大学等の状況	73
5. 教員組織の状況	75
6. 附帯事項等に対する履行状況等	91
7. その他全般的事項	92

# 1 調査対象大学等の概要等

## (1) 設置者

国立大学法人 京都工芸繊維大学

## (2) 大学名

京都工芸繊維大学

## (3) 調査対象大学等の位置

〒606-8585

京都府京都市左京区松ヶ崎橋上町1番地

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を( )書きで記入してください。  
 ・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

## (4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
学長	(モリサコ キヨタカ) 森迫 清貴 (平成30年4月1日)		
理事	(ツツミ ナオト) 堤 直人 (平成30年4月1日)		
	(ヨシモト マサヒロ) 吉本 昌広 (平成30年4月1日)		
	(ワタナベ ヒデキ) 渡部 英樹 (平成28年4月1日)	(イヌイ ケンイチ) 乾 賢一 (平成31年4月1日)	新規就任(元)
		(オノ ヨシロウ) 小野 芳朗 (平成30年7月1日)	新規就任(元)
学部長	(マエダ コウジ) 前田 耕治 (平成30年4月1日)		
課程長	(フジワラ ススム) 藤原 進 (平成30年4月1日)	(シミズ マサキ) 清水 正毅 (平成31年4月1日)	任期満了に伴う交代(元)

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を( )書きで記入してください。

(例) 平成30年度に報告済の内容 → (30)

令和元年度に報告する内容 → (元)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告

された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。

- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください（入試区分ごとではありません）。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。
- ・ 様式は、平成27年度開設の4年制の学科の完成年度を超えて報告する場合（令和元年度までの5年間）ですが、完成年度を超えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。（修業年限が4年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。）
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) -① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称（学位）	学位又は学科の分野	設置時の計画				備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
工学科学部 応用化学課程 学士（工学）	工学関係	4年	169人	3年次人 11人	698人	

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を（ ）書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「備考」にその旨記載してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要（別記様式第2号（その2の1））」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) -② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	対象年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		平均入学定員超過率	開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	169 ( - ) [若干名]		169 ( - ) [若干名]										1.04倍	-	
志願者数	833 ( - ) [ 8 ]	- ( - ) [ - ]	823 ( - ) [ 26 ]	( ) ( ) [ ]											
受験者数	602 ( - ) [ 7 ]	- ( - ) [ - ]	610 ( - ) [ 25 ]	( ) ( ) [ ]											
合格者数	207 ( - ) [ 6 ]	- ( - ) [ - ]	200 ( - ) [ 5 ]	( ) ( ) [ ]											
B 入学者数	183 ( - ) [ 5 ]	- ( - ) [ - ]	169 ( - ) [ 1 ]	( ) ( ) [ ]											
入学定員超過率 B/A	1.08		1.00												

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
- ・ ( ) 内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(( ))書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ [ ]内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお、計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「-」を記入してください。

(5) -③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	183 [ 5 ] ( - )	- [ - ] ( - )	169 [ 1 ] ( - )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	
2年次	/		183 [ 5 ] ( - )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	
3年次			/		/		[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )
4年次	/						/		[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )
計			183 [ 5 ] ( - )		352 [ 6 ] ( - )	[ ] ( )			[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ [ ]内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
  - ・ ( )内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
  - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
  - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学の実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
  - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[ ]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成30年度	183 人	0 人	平成30年度	0 人	0 人	
令和元年度	352 人	0 人	平成30年度	0 人	0 人	
			令和元年度	0 人	0 人	
令和2年度	人	人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
令和3年度	人	人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
令和4年度	人	人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
			令和4年度	人	人	
合 計		0 人		人	人	

(注)・ 数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。

- ・ 各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- ・ 内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・ 在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・ 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。  
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学  
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{183} = \boxed{0} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{352} = \boxed{0} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【令和4年度】

$$\frac{\text{令和4年度の退学者数(a)}}{\text{令和4年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

(注)・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

## 2 授業科目の概要

<工芸科学部 応用化学課程>

### (1) ① 授業科目表

#### 【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
英語	Interactive English A	1前	1								6
	Interactive English B	1後	1								6
	Career English Basic	1前	1								5
	Academic English	1後	1								4
	Career English Intermediate	2前・後	1								4
	Career English Advanced	2前・後	1								4
	Active English CLIL	2前・後		1							4
	Active English Listening & Speaking I	2前・後		1							6
	Active English Listening & Speaking II	2前・後		1							4
	Active English Reading I	2前・後		1							4
	Active English Reading II	2前・後		1							8
	Active English Writing I	2前・後		1							4
	Active English Writing II	2前・後		1							4
	Active English Project-Based Learning	2前・後		1							2
	ドイツ語	ドイツ語初級基礎A	1前	1							
ドイツ語初級基礎B		1後	1								4
ドイツ語初級演習A		1前	1								4
ドイツ語初級演習B		1後	1								4
ドイツ語中級A		2前	1								2
ドイツ語中級B		2後	1								2
ドイツ語上級A		3前	1								2
ドイツ語上級B		3後	1								2
フランス語	フランス語初級基礎A	1前	1								4
	フランス語初級基礎B	1後	1								4
	フランス語初級演習A	1前	1								3
	フランス語初級演習B	1後	1								3
	フランス語中級A	2前	1								2
	フランス語中級B	2後	1								2
	フランス語上級A	3前	1								1
	フランス語上級B	3後	1								1
中国語	中国語初級基礎A	1前	1								3
	中国語初級基礎B	1後	1								3
	中国語初級演習A	1前	1								2
	中国語初級演習B	1後	1								2
	中国語中級A	2前	1								2
	中国語中級B	2後	1								2
小計(36科目)		6	30	0	0	0	0	0	0	0	49
工学部 工学部 工学部 工学部 工学部 工学部 工学部 工学部 工学部 工学部	工芸科学基礎	1前	1		1						4
	キャリア教育基礎	1前	1								2
	KITスタンダード	1後	2								6
	学習・キャリア戦略論	1後	2								1
	国際理解	1前	1		1						1
	人権教育	1前	2								1
	地球環境論	1前	2								1
	環境マネジメント	3前	1								2
	環境問題と持続可能な社会	1前	2								1
	環境と法	1後	2								1
環境論	1後	2								1	
情報セキュリティと情報倫理	1後	2								3	
生命倫理と環境倫理	2前	2								1	
テクノロジー論	2後	2								1	
現代科学と倫理	1前	2								1	

#### 【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
英語	Interactive English A	1前	1								6
	Interactive English B	1後	1								6
	Career English Basic	1前	1								5
	Academic English	1後	1								5
	Career English Intermediate	2前・後	1								6
	Career English Advanced	2前・後	1								6
	Active English CLIL	2前・後		1							2
	Active English Listening & Speaking I	2前・後		1							7
	Active English Listening & Speaking II	2前・後		1							4
	Active English Reading I	2前・後		1							3
	Active English Reading II	2前・後		1							2
	Active English Writing I	2前・後		1							4
	Active English Writing II	2前・後		1							1
	Active English Project-Based Learning	2前・後		1							2
	ドイツ語	ドイツ語初級基礎A	1前	1							
ドイツ語初級基礎B		1後	1								4
ドイツ語初級演習A		1前	1								4
ドイツ語初級演習B		1後	1								4
ドイツ語中級A		2前	1								2
ドイツ語中級B		2後	1								2
ドイツ語上級A		3前	1								2
ドイツ語上級B		3後	1								2
フランス語	フランス語初級基礎A	1前	1								4
	フランス語初級基礎B	1後	1								4
	フランス語初級演習A	1前	1								3
	フランス語初級演習B	1後	1								3
	フランス語中級A	2前	1								2
	フランス語中級B	2後	1								2
	フランス語上級A	3前	1								1
	フランス語上級B	3後	1								1
中国語	中国語初級基礎A	1前	1								2
	中国語初級基礎B	1後	1								2
	中国語初級演習A	1前	1								3
	中国語初級演習B	1後	1								3
	中国語中級A	2前	1								2
	中国語中級B	2後	1								2
小計(36科目)		6	30	0	0	0	0	0	0	0	46
工学部 工学部 工学部 工学部 工学部 工学部 工学部 工学部 工学部 工学部	工芸科学基礎	1前	1			2					4
	キャリア教育基礎	1前	1			1					1
	KITスタンダード	1後	2			1					9
	学習・キャリア戦略論	1後	2								1
	国際理解	1前	1			1					1
	人権教育	1前	2								1
	地球環境論	1前	2								1
	環境マネジメント	3前	1								2
	環境問題と持続可能な社会	1前	2								1
	環境と法	1後	2								1
環境論	1後	2								1	
情報セキュリティと情報倫理	1後	2								3	
生命倫理と環境倫理	2前	2								1	
テクノロジー論	2後	2								1	
現代科学と倫理	1前	2								1	





科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教	准教授	講師	助教	助手	
人文化	哲学	1後	2								1
	歴史学	1後	2								2
	舞台芸術論	3前	2								1
	日本近代精神史	1前	2								1
	美と芸術	1前	2								1
	比較宗教学	1前	2								1
	西洋文学論	1前	2								1
	日本近現代文学	1前	2								1
	科学と思想 (リベラル7-ツ・ゼミナル)	1後	2								1
	東西文化交流史	1後	2								1
	西洋文化論	1後	2								1
	日本史	1前	2								1
	フランス語圏の文化とジャポニスム	2前	2								1
	アジアの歴史と文化	1前	2								1
	ヨーロッパの歴史と文化	1後	2								3
	映画で学ぶ英語と文化	3後	2								1
	映画で学ぶドイツ語と文化	3前	2								1
	日本文学 I	1前	2								1
	日本文学 II	1後	2								1
	ラテン語	1後	2								1
文芸創作論	1後	2								1	
現代社会に学ぶ問う力・書く力 (リベラル7-ツ・ゼミナル)	1前・後	2								1	
感性の実践哲学 (リベラル7-ツ・ゼミナル)	1前	1								1	
人と自然と数学α	1前	2								1	
人と自然と数学β	1後	2								1	
人と自然と物理学	1後	2								3	
化学概論 I	1前	2								1	
化学概論 II	1後	2								1	
生物学概論 I	1前	2								1	
生物学概論 II	1後	2								1	
地球の科学	1後	2								1	
エネルギー科学	1前	2								1	
科学史	1後	2								1	
物理学 I	1前	2								1	
食と健康の科学	1前	2								4	
生命科学講話	1前	2								15	
時間生物学特論	3前	2								1	
生物学的人間学	1前	2								1	
医学概論	2後	2								1	
意外と知らない植物の世界	1後	2								5	
製品の機能から科学を学ぶ (リベラル7-ツ・ゼミナル)	1後	2								1	
小計 (64科目)		0	124	0	0	0	0	0	0	84	
体の科学	キャンパスヘルス概論	1前	2								1
	健康体力科学	2後	2								2
	生涯スポーツ	2前・後	2								5
	生体行動科学	2前	2								2
	スポーツ科学 I	1前	2								6
	スポーツ科学 II	1後	2								3
小計 (6科目)		0	12	0	0	0	0	0	0	9	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教	准教授	講師	助教	助手	
人文化	哲学	1後	2								1
	歴史学	1後	2								2
	舞台芸術論	3前	2								1
	日本近代精神史	1前	2								1
	美と芸術	1前	2								1
	比較宗教学	1前	2								1
	西洋文学論	1前	2								1
	日本近現代文学	1後	2								1
	科学と思想 (リベラル7-ツ・ゼミナル)	1後	2								1
	東西文化交流史	1後	2								1
	西洋文化論	1後	2								1
	日本史	1前	2								1
	フランス語圏の文化とジャポニスム	2前	2								1
	アジアの歴史と文化	1前	2								1
	ヨーロッパの歴史と文化	1後	2								3
	映画で学ぶ英語と文化	3後	2								1
	映画で学ぶドイツ語と文化	3前	2								1
	日本文学 I	1前	2								1
	日本文学 II	1後	2								1
	ラテン語	1後	2								1
文芸創作論	1後	2								1	
現代社会に学ぶ問う力・書く力 (リベラル7-ツ・ゼミナル)	1前	2								1	
感性の実践哲学 (リベラル7-ツ・ゼミナル)	1前	1								1	
人と自然と数学α	1前	2								1	
人と自然と数学β	1後	2								1	
人と自然と物理学	1後	2								3	
化学概論 I	1前	2								1	
化学概論 II	1後	2								1	
生物学概論 I	1前	2								1	
生物学概論 II	1後	2								1	
地球の科学	1後	2								1	
エネルギー科学	1前	2								1	
科学史	1後	2								1	
物理学 I	1前	2								1	
食と健康の科学	1前	2								4	
生命科学講話	1前	2								15	
時間生物学特論	3前	2								1	
生物学的人間学	1前	2								1	
医学概論	2後	2								1	
意外と知らない植物の世界	1後	2								5	
レーザーで測る、削る、染しむ (リベラル7-ツ・ゼミナル)	1前	2								1	
京都の防災と府民	1後	2								3	
製品の機能から科学を学ぶ (リベラル7-ツ・ゼミナル)	1後	2								1	
小計 (64科目)		0	125	0	0	0	0	0	0	82	
体の科学	キャンパスヘルス概論	1前	2								1
	健康体力科学	2後	2								2
	生涯スポーツ	2前・後	2								3
	生体行動科学	2前	2								2
	スポーツ科学 I	1前	2								6
	スポーツ科学 II	1後	2								3
小計 (6科目)		0	12	0	0	0	0	0	0	9	





科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置						兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
教職に関する科目	現代教師論	1後			2							1
	教育原論	1前			2							1
	日本教育史	1前			2							1
	教育心理学	1後			2							1
	教育社会学	1前			2							1
	教育課程論	1前			2							1
	理科教育法 I A	3前			2							1
	理科教育法 I B	3後			2	1						1
	理科教育法 II	2前・後			4							1
	道徳教育の理論と方法	1後			2							1
	特別活動論	1前			2							1
	教育方法論	1後			2							1
	視聴覚教育概説	1後			2							1
	生徒指導	1前			2							1
	教育相談論	1前			2							1
	教職実践演習(中・高)	4後			2							4
	教育実習 I	4前			4							1
	教育実習 II	4前			2							1
	教育実習 III	4前			1							1
	小計(19科目)			0	0	41	0	1	0	0	0	0
合計(291科目+11科目(地域創生))			71	437	64	26	22	0	17	0	0	343

卒業要件及び履修方法

一般プログラム

英語必修6単位を含み言語教育科目から12単位以上、工芸科学教養科目の選択科目から10単位以上と基本教養科目の選択科目から6単位以上とを合わせて人間教養科目22単位以上、専門基礎科目の必修科目24単位と選択科目から10単位を合わせて34単位以上、課程専門科目のコース共通(10単位)、卒業研究(8単位)とコース別の必修2単位の必修科目20単位、選択科目から18単位以上(自コース:12単位以上、他コース:6単位以上)を修得し、専門教育科目90単位以上及び合計134単位以上修得すること。  
(履修科目の登録の上限:50単位(年間))

地域創生Tech Program

英語必修6単位を含み言語教育科目から12単位以上、工芸科学教養科目の選択科目から10単位以上と基本教養科目の選択科目から6単位以上とを合わせて人間教養科目22単位以上、専門導入科目1単位、専門基礎科目の必修科目14単位と選択科目から20単位を合わせて34単位以上、課程専門科目の必修科目20単位、コース別の選択科目から10単位以上(自コース:6単位、他コース:4単位)以上を修得し、専門教育科目90単位以上及び合計134単位以上修得すること。  
(履修科目の登録の上限:50単位(年間))

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置						兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
教職に関する科目	現代教師論	1後			2							1
	教育原論	1前			2							1
	日本教育史	1前			2							1
	教育心理学	1後			1							1
	特別支援教育	1後			1							1
	教育社会学	1前			2							1
	教育課程論	1前			2							1
	理科教育法 I A	2前			2							1
	理科教育法 I B	2後			2			1				1
	理科教育法 II	2前・後			4			1				0
	理科教育法 II A	3前			2			1				1
	理科教育法 II B	3後			2			1				1
	道徳教育の理論と方法	1後			2							1
	特別活動論	1前			2							1
	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	1前			2							1
	教育方法論	1後			2							1
	視聴覚教育概説	1後			2							1
	生徒指導	1前			2							1
	教育相談・進路指導論	1前			2							1
	教職実践演習(中・高)	4後			2							4
教育実習 I	4前			4							1	
教育実習 II	4前			2							1	
教育実習 III	4前			1							1	
小計(20科目)			0	0	39	0		0	0	0	0	14
合計(298科目+11科目(地域創生))			71	446	64	23	22	0	15	0	0	316

卒業要件及び履修方法

一般プログラム

英語必修6単位を含み言語教育科目から12単位以上、工芸科学教養科目の選択科目から10単位以上と基本教養科目の選択科目から6単位以上とを合わせて人間教養科目22単位以上、専門基礎科目の必修科目24単位と選択科目から10単位を合わせて34単位以上、課程専門科目のコース共通(10単位)、卒業研究(8単位)とコース別の必修2単位の必修科目20単位、選択科目から18単位以上(自コース:12単位以上、他コース:6単位以上)を修得し、専門教育科目90単位以上及び合計134単位以上修得すること。  
(履修科目の登録の上限:50単位(年間))

地域創生Tech Program

英語必修6単位を含み言語教育科目から12単位以上、工芸科学教養科目の選択科目から10単位以上と基本教養科目の選択科目から6単位以上とを合わせて人間教養科目22単位以上、専門導入科目1単位、専門基礎科目の必修科目14単位と選択科目から20単位を合わせて34単位以上、課程専門科目の必修科目20単位、コース別の選択科目から10単位以上(自コース:6単位、他コース:4単位)以上を修得し、専門教育科目90単位以上及び合計134単位以上修得すること。  
(履修科目の登録の上限:50単位(年間))

【平成30年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
英語	Interactive English A	1前	1									6
	Interactive English B	1後	1									6
	Career English Basic	1前	1									5
	Academic English	1後	1									5
	Career English Intermediate	2前・後	1									5
	Career English Advanced	2前・後	1									6
	Active English CLIL	2前・後		1								2
	Active English Listening & Speaking I	2前・後		1								7
	Active English Listening & Speaking II	2前・後		1								4
	Active English Reading I	2前・後		1								5
	Active English Reading II	2前・後		1								3
	Active English Writing I	2前・後		1								4
	Active English Writing II	2前・後		1								1
	Active English Project-Based Learning	2前・後		1								2
ドイツ語	ドイツ語初級基礎A	1前		1								4
	ドイツ語初級基礎B	1後		1								4
	ドイツ語初級演習A	1前		1								4
	ドイツ語初級演習B	1後		1								4
	ドイツ語中級A	2前		1								2
	ドイツ語中級B	2後		1								2
	ドイツ語上級A	3前		1								2
ドイツ語上級B	3後		1								2	
フランス語	フランス語初級基礎A	1前		1								4
	フランス語初級基礎B	1後		1								4
	フランス語初級演習A	1前		1								3
	フランス語初級演習B	1後		1								3
	フランス語中級A	2前		1								2
	フランス語中級B	2後		1								2
	フランス語上級A	3前		1								1
フランス語上級B	3後		1								1	
中国語	中国語初級基礎A	1前		1								2
	中国語初級基礎B	1後		1								2
	中国語初級演習A	1前		1								3
	中国語初級演習B	1後		1								3
	中国語中級A	2前		1								2
中国語中級B	2後		1								2	
小計 (36科目)			6	30	0	0	0	0	0	0	0	47
工学部 工学系 工学部 工学系 工学部 工学系 工学部 工学系 工学部 工学系	工学部 工学系 工学部 工学系 工学部 工学系 工学部 工学系 工学部 工学系	1前		1		2						4
	キャリア教育基礎	1前		1		1						1
	KITスタンダード	1後		2		1						5
	学習・キャリア戦略論	1後		2								1
	国際理解	1前		1		1						1
	人権教育	1前		2								1
	地球環境論	1前		2								1
	環境マネジメント	3前		1								2
	環境問題と持続可能な社会	1前		2								1
	環境と法	1後		2								1
環境論	1後		2								1	
情報セキュリティと情報倫理	1後		2								3	
生命倫理と環境倫理	2前		2								1	
テクノロジー論	2後		2								1	
現代科学と倫理	1前		2								1	
ものづくりと技術	ものづくりと設計工学	1後		2		0						11
	ものづくりとデザイン科学	1前		2								27
	伝統産業概論 I	1前		2								1
	伝統産業概論 II	1後		2								8
	産学連携ものづくり実践	3前		4								1
ものづくり加工実習	2後		2								3	
実践ユニバーサルデザイン	1前		2								1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
リーダーシップと組織開発	リーダーシップ基礎 I-地域連携プロジェクト	1前		2		1			1		9
	リーダーシップ基礎 II	1後		2							1
	知的財産経営論	1前		2							2
	ベンチャー企業経営学	3後		2							1
	リーダーシップ実践 I	1前		2							2
	リーダーシップ実践 II	1前		2							2
	国際連携プロジェクト	4前		1		1					3
	京のサステイナブルデザイン	2前		2							4
文化財学	2前		2							2	
京の文化行政	2前		2							2	
京の伝統工芸-技と美	3前		2							9	
京の伝統工芸-知と美	4前		2							2	
京の意匠	1後		2							1	
京のまち	3後		2							5	
京の知恵 伝統産業の先進的ものづくり	2後		2							1	
京の産業技術史	1前		2							1	
京の生活文化史	1前・後		2							1	
京都の文学 I	1前		2							1	
京都の文学 II	1後		2							1	
京都の歴史 I	1前		2							3	
京都の歴史 II	1後		2							3	
現代京都論	1前		2							1	
京都の農林業	1後		2							8	
京都の自然と森林	1前		2							4	
宗教と文化	1後		2							1	
英語で京都	3後		2							1	
近代京都と三大学	1前		2							5	
京野菜を栽培する (リベラルアーツ・ゼミナール)	1前		1							2	
京都の経済 京都字・歴史館セミ (リベラルアーツ・ゼミナール)	1後		2							1	
1後			2							1	
小計 (52科目)			0	100	0	3	0	0	0	0	102
基本人文学部	法学	1前		2							1
	憲法	1後		2							1
	経済学	2前		2							1
	心理学	1前		2							1
	現代教育論	1前		2							1
	政治学	1後		2							1
	経済学入門	1後		2							1
	国際政治	1前		2							1
	生活と経済	1後		2							1
	社会学 I	1前		2							1
	社会学 II	1後		2							1
	現代社会と心	1後		2							1
	現代社会とジェンダー	1前		2							1
	食環境をめぐる国際社会と日本	1前		2							2
	人文地理学 I	1前		2							1
	人文地理学 II	1後		2							1
	医史学	1後		2							1
	発達心理学	1前		2							1
	社会科学の学び方 (リベラルアーツ・ゼミナール)	1後		2							1
	現代社会と映画製作 (リベラルアーツ・ゼミナール)	1前		1							1
世界はいま (リベラルアーツ・ゼミナール)	1後		1							1	
現代イスラーム世界の文化と社会 (リベラルアーツ・ゼミナール)	1前		1							1	
経営哲学 (リベラルアーツ・ゼミナール)	2後		2							1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
人 と 文 化	哲学	1後		2								1
	歴史学	1後		2								2
	舞台芸術論	3前		2								1
	日本近代精神史	1前		2								1
	美と芸術	1前		2								1
	比較宗教学	1前		2								1
	西洋文学論	1前		2								1
	日本近現代文学	1後		2								1
	科学と思想 (リベラルアーツ・ゼミナール)	1後		2								1
	東西文化交流史	1後		2								1
	西洋文化論	1後		2								1
	日本史	1前		2								1
	フランス語圏の文化とジャポニスム	2前		2								1
	アジアの歴史と文化	1前		2								1
	ヨーロッパの歴史と文化	1後		2								3
	映画で学ぶ英語と文化	3後		2								1
	映画で学ぶドイツ語と文化	3前		2								1
	日本文学 I	1前		2								1
	日本文学 II	1後		2								1
	ラテン語	1後		2								1
	文芸創作論	1後		2								1
	現代社会に学ぶ問う力・書く力 (リベラルアーツ・ゼミナール)	1前		2								1
	感性の実践哲学 (リベラルアーツ・ゼミナール)	1前		1								1
	人と自然と数学α	1前		2								1
	人と自然と数学β	1後		2								1
	人と自然と物理学	1後		2								3
	化学概論 I	1前		2								1
	化学概論 II	1後		2								1
	生物学概論 I	1前		2								1
	生物学概論 II	1後		2								1
	地球の科学	1後		2								1
	エネルギー科学	1前		2								1
	科学史	1後		2								1
	物理学 I	1前		2								1
食と健康の科学	1前		2								4	
生命科学講話	1前		2								15	
時間生物学特論	3前		2								1	
生物学的人間学	1前		2								1	
医学概論	2後		2								1	
意外と知らない植物の世界	1後		2								5	
レーザーで測る、創る、楽しむ (リベラルアーツ・ゼミナール)	1前		2								1	
京都の防災と府民	1後		2								1	
製品の機能から科学を学ぶ (リベラルアーツ・ゼミナール)	1後		2								1	
小計 (66科目)			0	128	0	0	0	0	0	0	0	81
体 の 科 学	キャンパスヘルス概論	1前		2								1
	健康体力科学	2後		2								2
	生涯スポーツ	2前・後		2								3
	生体行動科学	2前		2								2
	スポーツ科学 I	1前		2								6
	スポーツ科学 II	1後		2								3
小計 (6科目)			0	12	0	0	0	0	0	0	0	9



科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門 導入 科目	地域課題導入セミナー	1前	1								3
	小計(1科目)		1	0	0	0	0	0	0	0	3
数学	基礎解析Ⅰ	1前		2							3
	基礎解析Ⅱ	1後		2							3
	線形代数学Ⅰ	1前		2							1
	線形代数学Ⅱ	1後		2							1
	数学演習Ⅰ	1前		2							3
	数学演習Ⅱ	1後		2							3
	解析学Ⅰ	2前		2							1
	解析学Ⅱ	2後		2							1
	統計数理	2前		2							2
	応用解析	2前		2							1
	応用幾何	2後		2							2
	応用数理	3前		2							1
	数理応用代数	4後		2							1
	数理応用幾何	4後		2							1
	数理応用解析	4後		2							1
	数理応用統計	4後		2							1
	数理応用演習	4前		1							4
物理学	物理学Ⅰ	1前		2		1	1				1
	物理学Ⅰ演習	1前		2			1		1		2
	物理学Ⅱ	1後		2							3
	物理学Ⅱ演習	1後		2							3
	物理学基礎実験	2前・後	2				1		2		2
	量子力学	2後		2							1
化学	化学Ⅰ	1前	2			2					
	化学Ⅱ	1後	2			2	1				
	物理化学Ⅰ(熱力学)	2前	2			3	1				
	物理化学Ⅱ(量子論)	2前	2			3	1				
	物理化学Ⅲ(平衡と速度論)	2後	2			3	1				
	物理化学演習	3前	2			5	4		2		
	有機化学Ⅰ	2前	2			2	2				
	有機化学Ⅱ	2後	2				2		2		
	化学工学Ⅰ	2後	2			1	1				
	無機化学Ⅰ	2前	2			3					
	高分子化学	2後	2			2	1		1		
	分析化学	1後	2			2	1				
	化学基礎実験	2前・後	2			25	20		17		
環境化学	3後	2								2	
生物学	生物学Ⅰ	1前		2							4
	生物学Ⅱ	1後		2							4
	資源生物と環境	1後		2							4
	生物学基礎実験A	4前			2						28
情報	情報処理演習	1前	2				2		4		
	学術国際情報	3前	2			25	20		17		
その他	地学Ⅰ	4前			2						1
	地学Ⅱ	4前			2						1
	地学実験	4前			2						2
	インターンシップA	3前		1		1					
	インターンシップB	3前		2		1					
繊維科学プログラム科目	サステナブルマテリアル	3前		2							2
	繊維ナノ構造学	3後		2							1
	繊維プロセス工学	4前		2							13
	繊維生産流通システム概論	3後		2							1
	染色科学	3前		2							1
	クロウジングサイエンス	4前		2							2
知的財産	繊維科学実験	4前		2							1
	アントレプレナーシップ概論	2前			2						1
	知的財産概論Ⅰ	2前		2							1
	知的財産概論Ⅱ	2後		2							1
	特許法・実用新案法Ⅰ	2前		2							1
	特許法・実用新案法Ⅱ	2後		2							1
	知的財産演習	3後		1							1
	民法概論Ⅰ	2前		2							1
	民法概論Ⅱ	2後		2							1
	複合材料	繊維科学概論	3後		1						
複合材料科学		3後		2							1
先端複合材料科学		3後		2							1
複合材料基礎実験		3後		1							1
複合材料ものづくり実験		4前		1							1
小計(65科目+5科目(地域創生))		24	83	23	25	20	0	17	0	84	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
I 応用化学	応用化学序論 I	1後	2			25	20			17			
	応用化学序論 II	2前	2			25	20			17			
	コースゼミ	3後	2			25	20			17			
	応用化学実験 I	3前	2			25	20			17			
	応用化学実験 II	3後	2			25	20			17			
卒業研究	卒業研究	4通	8			25	20			17			
II A 高分子化学	高分子物性	2後	2			1	1						
	振動・波動	2後		2		1							
	高分子レオロジー	3前		2		1							
	液晶・高分子物性	3前		2		1							
	ナノ材料物理化学	3後		2		2	0						
	統計物理学	2後		2				1					
	シミュレーション物理学	3前		2		1							
	高分子分子物性	3前		2		1	0						
	高分子構造学	3後		2				1			1		
	環境と高分子	3後		2				1					
	ファイバーサイエンス	3前		2		1	1						
	高分子材料化学	3前		2		1	1			0			
	有機材料設計	3後		2		1	1						
II B 無機化学	無機化学 II	2後	2			0	2						
	無機化学演習	2後		2				4		1			
	有機化学演習	2後		2				1		5			
	実験解析	2後		2		2							
	材料機器分析概論	3前		2		1	3			1			
	無機材料科学 I	3前		2		1	1						
	無機材料科学 II	3後		2		1	1						
	固体物性論	3前		2		1							
	分子量子化学	3後		2				1		1			
	固体熱力学	3後		2		1						1	
	金属材料学	3後		2								1	
	II C 有機化学	無機化学 II	2後		2				2				
		無機化学演習	2後		2				4		1		
有機化学演習		2後	2					1		5			
生化学 I		2後		2		1							
有機化学 III		3前		2		1				1			
高分子材料化学		3前		2		1	1			0			
有機機器分析		3前		2				1		1			
有機化学 IV		3後		2		1				1			
有機反応化学		3後		2				2					
精密合成化学		3後		2		2							
精密材料化学		3後		2		2							
II D 有機化学		有機化学演習	2後		2				1		5		
		生化学 I	2後	2			1						
	生化学 II	3前		2				1					
	生化学 III	3後		2				1					
	応用分析化学	2後		2		1	1						
	機能分子化学 I	3前		2			2			1			
	機能分子化学 II	3後		2		2							
	生体分子工学	3前		2		1							
	化学工学 II	3前		2		1	1						
	生物化学工学	3後		2		1	1						
III 材料工学	材料工学特論	4後		2		1						2	
	技術者倫理	3後		2								1	
IV 地域創生	地域創生課題セミナー I	3後	2									2	
	地域創生課題セミナー II	4前		2								2	
	ものづくりインターンシップ I	3後	4									2	
	ものづくりインターンシップ II	4前		4								2	
	卒業プロジェクト	4通	8				25	20		17			
小計 (53科目+5科目(地域創生))			40	92	0	25	20	0	17	0	7		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
教職に関する科目	現代教師論	1後			2							1
	教育原論	1前			2							1
	日本教育史	1前			2							1
	教育心理学	1後			2							1
	教育社会学	1前			2							1
	教育課程論	1前			2							1
	理科教育法 I A	3前			2							1
	理科教育法 I B	3後			2		1					1
	理科教育法 II	2前・後			4		1					0
	道徳教育の理論と方法	1後			2							1
	特別活動論	1前			2							1
	教育方法論	1後			2							1
	視聴覚教育概説	1後			2							1
	生徒指導	1前			2							1
	教育相談・進路指導論	1前			2							1
	教職実践演習（中・高）	4後			2							4
	教育実習 I	4前			4							1
	教育実習 II	4前			2							1
教育実習 III	4前			1							1	
小計（18科目）			0	0	39	0	1	0	0	0	0	12
合計（294科目+11科目（地域創生））			71	445	62	25	20	0	17	0	0	315

卒業要件及び履修方法

一般プログラム

英語必修6単位を含み言語教育科目から12単位以上、工芸科学教養科目の選択科目から10単位以上と基本教養科目の選択科目から6単位以上とを合わせて人間教養科目22単位以上、専門基礎科目の必修科目24単位と選択科目から10単位を合わせて34単位以上、課程専門科目のコース共通（10単位）、卒業研究（8単位）とコース別の必修2単位の必修科目20単位、選択科目から18単位以上（自コース：12単位以上、他コース：6単位以上）を修得し、専門教育科目90単位以上及び合計134単位以上修得すること。  
（履修科目の登録の上限：50単位（年間））

地域創生Tech Program

英語必修6単位を含み言語教育科目から12単位以上、工芸科学教養科目の選択科目から10単位以上と基本教養科目の選択科目から6単位以上とを合わせて人間教養科目22単位以上、専門導入科目1単位、専門基礎科目の必修科目14単位と選択科目から20単位を合わせて34単位以上、課程専門科目の必修科目20単位、コース別の選択科目から10単位（自コース：6単位、他コース：4単位）以上を修得し、専門教育科目90単位以上及び合計134単位以上修得すること。  
（履修科目の登録の上限：50単位（年間））

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 本授業科目表は、開設年度から提出年度までの間において実際に実施された授業科目に関する情報として記入してください。
  - ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号（その2の1）に準じて作成してください。
  - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
  - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て（兼任、兼任教員が担当する科目を含む。）を黒字で記入してください。その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**太字の赤字**としてください。
  - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「（未開講）」として記入してください。
  - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
  - ・ 不要な年度（平成29年度開設であれば平成28年度）の表は適宜削除してください。  
(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)

(1) 一②授業科目表に関する変更内容

【平成30年度】

- ・担当教員の見直しにより、「Academic English」の教員配置を「兼任・兼任4」から「兼任・兼任5」に変更。
- ・担当教員の見直しにより、「Career English Intermediate」の教員配置を「兼任・兼任4」から「兼任・兼任5」に変更。
- ・担当教員の見直しにより、「Career English Advanced」の教員配置を「兼任・兼任4」から「兼任・兼任6」に変更。
- ・教育プログラムの見直しに伴い、「Active English CLIL」の教員配置を「兼任・兼任4」から「兼任・兼任2」に変更。
- ・担当教員の見直しにより、「Active English Listening & Speaking I」の教員配置を「兼任・兼任6」から「兼任・兼任7」に変更。
- ・担当教員の見直しにより、「Active English Reading I」の教員配置を「兼任・兼任4」から「兼任・兼任5」に変更。
- ・教育プログラムの見直しに伴い、「Active English Reading II」の教員配置を「兼任・兼任8」から「兼任・兼任3」に変更。
- ・教育プログラムの見直しに伴い、「Active English Writing II」の教員配置を「兼任・兼任4」から「兼任・兼任1」に変更。
- ・教育プログラムの見直しに伴い、「中国語初級基礎A」の教員配置を「兼任・兼任3」から「兼任・兼任2」に変更。
- ・教育プログラムの見直しに伴い、「中国語初級基礎B」の教員配置を「兼任・兼任3」から「兼任・兼任2」に変更。
- ・担当教員の見直しにより、「中国語初級演習A」の教員配置を「兼任・兼任2」から「兼任・兼任3」に変更。
- ・担当教員の見直しにより、「中国語初級演習B」の教員配置を「兼任・兼任2」から「兼任・兼任3」に変更。
- ・学部長に本課程専任教員が就任したため、「工芸科学基礎」の教員配置を「教授1、兼任・兼任5」から「教授2、兼任・兼任4」に変更。
- ・学部長に本課程専任教員が就任したため、「キャリア教育基礎」の教員配置を「兼任・兼任2」から「教授1、兼任・兼任1」に変更。
- ・副学長（教育担当）に本課程専任教員が就任したため、「KITスタンダード」の教員配置を「兼任・兼任6」から「教授1、兼任・兼任5」に変更。
- ・教育プログラムの見直しに伴い、「ものづくりと設計工学」の教員配置を「教授1、兼任・兼任10」から「兼任・兼任11」に変更。
- ・学域改組に伴い、「ものづくりと造形科学」を「ものづくりとデザイン学」に科目名変更、及び、教育プログラムの見直しに伴い、「ものづくりとデザイン学」の教員配置を「兼任・兼任14」から「兼任・兼任27」に変更。
- ・副学長（教育担当）に本課程専任教員が就任したため、及び担当教員の見直しにより、「リーダーシップ基礎Ⅰ-地域連携プロジェクト」の教員配置を「兼任・兼任10」から「教授1、助教1、兼任・兼任9」に変更。
- ・教育プログラムの見直しに伴い、「リーダーシップ基礎Ⅱ」の教員配置を「兼任・兼任2」から「兼任・兼任1」に変更。
- ・教育プログラムの見直しに伴い、「リーダーシップ実践Ⅰ」の教員配置を「兼任・兼任1」から「兼任・兼任2」に変更。
- ・担当教員の見直しにより、「国際連携プロジェクト」の教員配置を「兼任・兼任2」から「教授1、兼任・兼任3」に変更。
- ・三大学教養教育共同化科目のため関係大学と協議により、「京の産業技術史」の開講時期を「1後」から「1前」に変更。
- ・教育プログラムの見直しに伴い、「法学」の教員配置を「兼任・兼任2」から「兼任・兼任1」に変更。
- ・教育プログラムの見直しに伴い、「憲法」の教員配置を「兼任・兼任2」から「兼任・兼任1」に変更。
- ・教育プログラムの見直しに伴い、「現代社会とジェンダー」の教員配置を「兼任・兼任6」から「兼任・兼任1」に変更。
- ・教育プログラムの見直しに伴い、「人文地理学Ⅰ」の教員配置を「兼任・兼任2」から「兼任・兼任1」に変更。
- ・三大学教養教育共同化科目のため関係大学と協議により、「医史学」の開講時期を「1前」から「1後」に変更。
- ・三大学教養教育共同化科目のため関係大学と協議により、「アメリカと中国はいま（リベラルアーツ・ゼミナール）」を「世界はいま（リベラルアーツ・ゼミナール）」に科目名変更。
- ・三大学教養教育共同化科目のため関係大学と協議により、「経営哲学（リベラルアーツ・ゼミナール）」の開講時期を「2前」から「2後」に変更。
- ・三大学教養教育共同化科目のため関係大学と協議により、「日本近現代文学」の開講時期を「1前」から「1後」に変更。
- ・三大学教養教育共同化科目のため関係大学と協議により、「現代社会に学ぶ問う力・書く力（リベラルアーツゼミナール）」の開講時期を「1前・後」から「1前」に変更。
- ・担当教員の見直しにより、「人と自然と物理学」の教員配置を「兼任・兼任2」から「兼任・兼任3」に変更。
- ・教育プログラム充実のため、「レーザーで測る、創る、楽しむ（リベラルアーツ・ゼミナール）」を新設。
- ・教育プログラム充実のため、「京都の防災と府民」を新設。
- ・教育プログラムの見直しに伴い、「生涯スポーツ」の教員配置を「兼任・兼任5」から「兼任・兼任3」に変更。
- ・教育プログラムの見直しに伴い、「応用幾何」の教員配置を「兼任・兼任1」から「兼任・兼任2」に変更。
- ・担当教員の昇任に伴い、「物理学Ⅰ」の教員配置を「准教授2」から「教授1、准教授1」に変更。
- ・担当教員の見直しにより、「物理学Ⅰ演習」の教員配置に「兼任・兼任2」を追加。
- ・担当教員の見直しにより、「物理学基礎実験」の教員配置を「助教1」から「助教2」に変更。
- ・担当教員の昇任に伴い、「物理化学Ⅲ（平衡と速度論）」の教員配置を「教授2、准教授2」から「教授3、准教授1」に変更。
- ・担当教員の昇任に伴い、「物理化学演習」の教員配置を「教授4、准教授5、助教2」から「教授5、准教授4」に変更。
- ・次年度以降に採用予定のため、「化学基礎実験」「学術国際情報」「応用化学序論Ⅰ」「応用化学序論Ⅱ」「コースゼミ」「応用化学実験Ⅰ」「応用化学実験Ⅱ」「卒業研究」「卒業プロジェクト」の教員配置を「教授26、准教授22、助教17」から「教授25、准教授20、助教17」に変更。
- ・担当教員の見直しにより、「生物学Ⅰ」の教員配置を「兼任・兼任3」から「兼任・兼任4」に変更。
- ・教育プログラムの見直しに伴い、「生物学基礎実験A」の教員配置を「兼任・兼任32」から「兼任・兼任28」に変更。
- ・教育プログラム充実のため、「サステイナブルマテリアル」を新設。
- ・教育プログラムの見直しに伴い、「繊維プロセス工学」の教員配置を「兼任・兼任15」から「兼任・兼任13」に変更。
- ・教育プログラム充実のため、「染色科学」を新設。
- ・担当教員の昇任に伴い、「ナノ材料物理化学」の教員配置を「教授1、准教授1」から「教授2」に変更。
- ・担当教員の昇任に伴い、「高分子分子物性」の教員配置を「准教授1」から「教授1」に変更。
- ・教育プログラムの見直しに伴い、「高分子材料化学」の教員配置を「准教授1、助教1」から「教授1、准教授1」に変更。
- ・設置計画書の誤記修正のため、「無機化学Ⅱ」の教員配置を「教授1、准教授1」から「准教授2」に変更。
- ・担当教員の見直しにより、「無機材料科学Ⅰ」の教員配置に「准教授1」を追加。
- ・教職課程認定申請において文部科学省と相談のうえ、「日本教育史」を「教育原論」に統合。
- ・教育プログラムの見直しに伴い、「理科教育法Ⅱ」の教員配置を「兼任・兼任1」から「准教授1」に変更。
- ・教職課程認定申請において指摘を受けたため、「教育相談論」を「教育相談・進路指導論」に科目名変更。

## 【令和元年度】

- ・授業内容、分担の見直しにより、「Career English Intermediate」の教員配置を「兼5」から「兼6」に変更。
- ・授業内容、分担の見直しにより、「Active English Reading I」の教員配置を「兼5」から「兼3」に変更。
- ・授業内容、分担の見直しにより、「Active English Reading II」の教員配置を「兼3」から「兼2」に変更。
- ・授業内容、分担の見直しにより、「KITスタンダード」の教員配置を「兼5」から「兼9」に変更。
- ・教育プログラムの見直しにより、「エネルギー科学」の科目区分を「人と自然」から「科学技術と環境・倫理」に変更。
- ・授業内容、分担の見直しにより、「ものづくりと設計工学」の教員配置を「兼11」から「兼12」に変更。
- ・授業内容、分担の見直しにより、「ものづくりとデザイン科学」の教員配置を「兼27」から「兼24」に変更。
  
- ・授業内容、分担の見直しにより、「伝統産業概論Ⅰ」の教員配置を「兼1」から「兼3」に変更。
- ・授業内容、分担の見直しにより、「伝統産業概論Ⅱ」の教員配置を「兼8」から「兼3」に変更。
- ・授業内容、分担の見直しにより、「実践ユニバーサルデザイン」の教員配置を「兼1」から「兼2」に変更。
- ・授業内容、分担の見直しにより、「リーダーシップ基礎Ⅰー地域連携プロジェクト」の教員配置を「教授1、助教1、兼9」から「教授1、助教2、兼7」に変更。
- ・授業内容、分担の見直しにより、「リーダーシップ実践Ⅰ」の教員配置を「兼2」から「兼1」に変更。
- ・「国際連携プロジェクトⅡ」を新設したことにより、従来の「国際連携プロジェクト」を「国際連携プロジェクトⅠ」に名称変更
- ・三大学教養教育共同化科目のため、提供元の事情により、「京都学・歴史館ゼミ（リベラルアーツ・ゼミナール）」の科目名称を「資料で親しむ京都学（リベラルアーツ・ゼミナール）」に変更。
- ・三大学教養教育共同化科目のため、提供元の事情により、「食環境をめぐる国際社会と日本」の科目名称を「食環境をめぐる国際社会と日本α」に変更、開講時期を「1前」から「1後」に変更。
- ・授業内容、分担の見直しにより、「京都の防災と府民」の教員配置を「兼1」から「兼3」に変更。
- ・授業内容、分担の見直しにより、「統計数理」の教員配置を「兼2」から「兼1」に変更。
- ・授業内容、分担の見直しにより、「物理学基礎実験」の教員配置を「准教授1、助教2、兼2」から「准教授2、助教2、兼4」に変更。
- ・担当教員の昇任により、「物理化学演習」の教員配置を「教授5、准教授4、助教2」から「教授5、准教授5、助教1」に変更。
- ・担当教員の退職による授業内容、分担の見直しにより、「高分子化学」の教員配置を「教授2、准教授1、助教1」から「教授1、准教授1、助教1」に変更。
- ・担当教員の退職による授業内容、分担の見直しにより、「分析化学」の教員配置を「教授2、准教授1」から「教授1、准教授1」に変更。
- ・担当教員の昇任、退職による授業内容、分担の見直しにより、「化学基礎実験」の教員配置を「教授25、准教授20、助教17」から「教授23、准教授22、助教15」に変更。
- ・担当教員の昇任、退職による授業内容、分担の見直しにより、「学術国際情報」の教員配置を「教授25、准教授20、助教17」から「教授23、准教授22、助教15」に変更。
- ・地域創生Tech Programコースに対する福知山キャンパスでの開講科目を充実させるため、「先端情報工学概論」を新設。
- ・教育プログラムの充実のため、「繊維科学基礎」を新設。
- ・教育プログラムの充実のため、「生物繊維材料学」を新設。
- ・授業内容、分担の見直しにより、「繊維プロセス工学」の教員配置を「兼13」から「兼12」に変更。
- ・3年次に履修する専門科目を修得した後の受講による教育効果が高いため、「繊維生産流通システム概論」開講時期を「3後」から「4後」に変更。
- ・福知山キャンパスにおいて開講する科目であったが、幅広く一般プログラムの学生にも受講可能とするため、「知的財産演習」の開講時期を「3後」から「3前」に変更し、松ヶ崎キャンパスにおいて開講。
- ・担当教員の昇任、退職による授業内容、分担の見直しにより、「応用化学序論Ⅰ」の教員配置を「教授25、准教授20、助教17」から「教授23、准教授22、助教15」に変更。
- ・担当教員の昇任、退職による授業内容、分担の見直しにより、「応用化学序論Ⅱ」の教員配置を「教授25、准教授20、助教17」から「教授23、准教授22、助教15」に変更。
- ・担当教員の昇任、退職による授業内容、分担の見直しにより、「コースゼミ」の教員配置を「教授25、准教授20、助教17」から「教授23、准教授22、助教15」に変更。
- ・担当教員の昇任、退職による授業内容、分担の見直しにより、「応用化学実験Ⅰ」の教員配置を「教授25、准教授20、助教17」から「教授23、准教授22、助教15」に変更。
- ・担当教員の昇任、退職による授業内容、分担の見直しにより、「応用化学実験Ⅱ」の教員配置を「教授25、准教授20、助教17」から「教授23、准教授22、助教15」に変更。
- ・担当教員の昇任、退職による授業内容、分担の見直しにより、「卒業研究」の教員配置を「教授25、准教授20、助教17」から「教授23、准教授22、助教15」に変更。
- ・担当教員の昇任により、「無機化学演習」の教員配置を「准教授4、助教1」から「教授1、准教授3、助教1」に変更。
- ・担当教員の昇任により、「有機化学演習」の教員配置を「准教授1、助教5」から「准教授2、助教4」に変更。
- ・担当教員の昇任により、「分子量子化学」の教員配置を「准教授1、助教1」から「教授1、助教1」に変更。
- ・担当教員の昇任により、「有機化学Ⅲ」の教員配置を「教授1、助教1」から「教授1、准教授1」に変更
- ・担当教員の昇任により、「有機機器分析」の教員配置を「准教授1、助教1」から「准教授2」に変更。
- ・担当教員の昇任により、「有機化学Ⅳ」の教員配置を「教授1、助教1」から「教授1、准教授1」に変更。
- ・担当教員の昇任により、「生化学Ⅲ」の教員配置を「准教授1」から「教授1」に変更。
- ・担当教員の昇任により、「機能分子化学Ⅰ」の教員配置を「准教授2、助教1」から「教授1、准教授1、助教1」に変更。
- ・授業内容、分担の見直しにより、「地域創生課題セミナーⅠ」の教員配置を「兼2」から「兼3」に変更。
- ・「ものづくりインターシップⅡ」は海外実習2週間及び国内実習2週間というプログラムであるが、海外実習2週間のみというプログラムを提供するため、「ものづくりインターシップⅢ」（海外実習2週間のみ）を新設。
- ・担当教員の昇任、退職による授業内容、分担の見直しにより、「卒業プロジェクト」の教員配置を「教授25、准教授20、助教17」から「教授23、准教授22、助教15」に変更。
- ・教職課程認定申請において文部科学省と相談のうえ科目内容の見直しを行い、「教育心理学」の単位数を「2」から「1」に変更。
- ・教職課程認定申請において、新たに科目の設置が必要となる区分ができたために、文部科学省と相談のうえ「特別支援教育」を新設。
- ・教職課程認定申請において文部科学省と相談のうえ従来の「理科教育法Ⅱ」を「理科教育法ⅡA」及び「理科教育法ⅡB」に分割し、3年前期と後期に開講することとした。そのために、「理科教育法ⅠA」及び「理科教育法ⅠB」の開講時期を「3年次」から「2年次」に変更。
- ・教職課程認定申請において、新たに科目の設置が必要となる区分ができたために、文部科学省と相談のうえ、「特別活動及び総合的な学習の時間の指導法」を新設。

- (注) ・ 2(1)一① 授業科目表に記入された各年度における変更内容(配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など)を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
  - ・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
32 科目	239 科目	31 科目	302 科目	32 科目 [0]	244 科目 [5]	33 科目 [2]	309 科目 [7]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[ ]内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1	京野菜を栽培する (リベラルアーツ・ゼミナール)	1	1前	一般	選択	三大学教養教育共同化科目のため、提供元（京都三大学教養教育研究・推進機構）の事情により未開講となった。代替措置は行わないが、次年度は開講する予定。

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
  - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由、代替措置の有無
1	日本教育史	2	1前	一般	選択	教職課程認定申請において文部科学省と相談のうえ「教育原論」に科目を統合した。
2	環境論	2	1後	一般	選択	三大学教養教育共同化科目のため、提供元（京都三大学教養教育研究・推進機構）の事情により廃止となった。
3	産学連携ものづくり実践	4	3前	一般	選択	企業等とマッチングの結果、他のPBL科目に本科目の内容を含め開講することとなった。
4	現代社会と映画製作(リベラルアーツ・ゼミナール)	1	1前	一般	選択	三大学教養教育共同化科目のため、提供元（京都三大学教養教育研究・推進機構）の事情により廃止となった。
5	理科教育法Ⅱ	4	2前・後	一般	選択	教職課程認定申請において文部科学省と相談のうえ「理科教育法ⅡA」と「理科教育法ⅡB」に科目を分割した。
6	特別活動論	2	1前	一般	選択	教職課程認定申請において文部科学省と相談のうえ、本科目を廃止して「特別活動及び総合的な学習の時間の指導法」を新設することとした。

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

<p>廃止科目の科目番号1、5及び6は、教職課程認定申請において、文部科学省と相談の上、科目の統合または新設をしたことにより、従前の科目を廃止することとした。</p> <p>他の科目は、教育プログラムの見直しにより未開講または廃止とした。ただし、新しく13科目を設置しているので、学生へ提供する教育プログラムは設置時より充実させている。</p> <p>科目の変更等については履修要項（冊子）及びHPにより学生に周知を行っている。</p>
--

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能なかぎり具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{7}{302} = \boxed{2.31}\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。  
・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。



### 3 施設・設備の整備状況, 経費

区 分		内 容				備考			
(1) 校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計				
	校舎敷地	132,505㎡	㎡	㎡	132,505㎡				
	運動場用地	18,658㎡	㎡	㎡	18,658㎡				
	小 計	151,163㎡	㎡	㎡	151,163㎡				
	そ の 他	62,240㎡	㎡	㎡	62,240㎡				
	合 計	213,403㎡	㎡	㎡	213,403㎡				
(2) 校舎	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	専攻単位では特定不能のため、申請大学全体の数				
	114,445㎡ ( ㎡)	㎡ ( ㎡)	㎡ ( ㎡)	114,445㎡ ( ㎡)					
(3) 教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	福知山キャンパスにおいて、実験室が整備されたため(元)			
	55室	44 39室	306 333室	7室 (補助職員14人)	5室 (補助職員8人)				
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称		室 数						
	工芸科学部応用化学課程		64 60 室						
(5) 図書・設備	新設学部等の名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	専攻単位では特定不能のため、申請大学全体の数  新規購入・寄贈、除却による増減(29)(30)(元)	
	工芸科学部・工芸科学研究科	<del>408,532 [161,174]</del> 410,861 [161,588]	<del>8,380 [5,363]</del> 8,400 [5,352]	<del>2,886 [2,827]</del> 2,889 [2,830]	1,601 1,605	4,474 4,741	886		
		( <del>408,532 [161,174]</del> 410,861 [161,588] )	( <del>8,380 [5,363]</del> 8,400 [5,352] )	( <del>2,886 [2,827]</del> 2,889 [2,830] )	( 1,601 1,605 )	( 4,474 4,741 )	( 886 )		
	計	<del>408,532 [161,174]</del> 410,861 [161,588]	<del>8,380 [5,363]</del> 8,400 [5,352]	<del>2,886 [2,827]</del> 2,889 [2,830]	1,601 1,605	4,474 4,741	886		
	( <del>408,532 [161,174]</del> 410,861 [161,588] )	( <del>8,380 [5,363]</del> 8,400 [5,352] )	( <del>2,886 [2,827]</del> 2,889 [2,830] )	( 1,601 1,605 )	( 4,474 4,741 )	( 886 )			
(6) 図書館	面 積		閲 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数				
	4,893㎡		546 548		426,139 428,500				
(7) 体育館	面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要						
	1,772㎡		武 道 場 、 弓 場 テ ニ ス コ ー ト 6 面						
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	
		教員1人当り研究費等	千円	千円	図書購入費	千円	千円	千円	
		共同研究費等	千円	千円	設備購入費	千円	千円	千円	
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
		千円	千円	千円	千円	千円	千円		
学生納付金以外の維持方法の概要									

(注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)

- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨（所要時間・距離等）を「備考」に記入してください。
- ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和元年5月1日現在の数値を記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(元)」を「備考」に赤字で記入してください。  
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
- ・ 校舎等建物の計画の変更（校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延）がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。  
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、黒字で記入してください。
- ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大学 の 名 称	京都工芸繊維大学									備 考
既設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定 員	収容 定員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	定員変更 年度 (AC期間の 学科のみ)	開設 年度	所 在 地	
	年	人	年次	人		倍	年度	年度	年度	
工芸科学部									京都府京都市左 京区松ヶ崎橋上 町1番地	
応用生物学課程	4	50		200	学士(農学)	1.07	-	平成18年度 改組		
応用化学課程	4	169		676	学士(工学)	1.04	平成30	平成30年度	同上	
生体分子応用化学課程	4	-		-	学士(工学)	-	-	平成26年度 改称	同上	
高分子機能工学課程	4	-		-	学士(工学)	-	-	平成18年度 改組	同上	
物質工学課程	4	-		-	学士(工学)	-	-	平成18年度 改組	同上	
生体分子工学課程	4	-		-	学士(工学)	-	-	平成18年度 改組	同上	
電子システム工学課程	4	61		244	学士(工学)	1.08	-	平成18年度 改組	同上	
情報工学課程	4	61		244	学士(工学)	1.02	-	平成18年度 改組	同上	
機械工学課程	4	86		344	学士(工学)	1.03	-	平成27年度 改称	同上	
機械システム工学課程	4	-		-	学士(工学)	-	-	平成18年度 改組	同上	
デザイン・建築学課程	4	156		624	学士(工学)	1.02	平成30	平成30年度 設置	同上	
デザイン経営工学課程	4	-		-	学士(工学)	-	-	平成18年度 改組	同上	
デザイン・建築学課程	4	-		-	学士(工学)	-	-	平成26年度 改称	同上	
造形工学課程	4	-		-	学士(工学)	-	-	平成18年度 改組	同上	
上記課程共通			50	100						
先端科学技術課程	4	-		-	学士(工学)	-	-	平成18年度 改組	同上	
工芸科学研究科博士前期課程										
応用生物学専攻	2	40		80	修士(農学)	0.72	-	平成18年度 改組	同上	
材料創製化学専攻	2	33		66	修士(工学)	1.10	-	平成27年度 設置	同上	
材料制御化学専攻	2	32		64	修士(工学)	1.04	-	平成27年度 設置	同上	
物質合成化学専攻	2	33		66	修士(工学)	0.90	-	平成27年度 設置	同上	
機能物質化学専攻	2	32		64	修士(工学)	0.92	-	平成27年度 設置	同上	
電子システム工学専攻	2	50		100	修士(工学)	1.11	-	平成18年度 改組	同上	
情報工学専攻	2	46		92	修士(工学)	1.10	-	平成18年度 改組	同上	
機械システム工学専攻	2	-		-	修士(工学)	-	-	平成18年度 改組	同上	
機械物理学専攻	2	37		74	修士(工学)	0.95	-	平成27年度 設置	同上	
機械設計学専攻	2	30		60	修士(工学)	1.06	-	平成27年度 設置	同上	
デザイン学専攻	2	45		90	修士(工学)	1.09	平成30	平成30年度 設置	同上	
デザイン経営工学専攻	2	-		-	修士(工学)	-	-	平成18年度 改組	同上	
造形工学専攻	2	-		-	修士(工学)	-	-	平成18年度 改組	同上	
建築設計学専攻	2	-		-	修士(工学)	-	-	平成18年度 改組	同上	

デザイン学専攻	2	—	—	修士（工学）	—	—	平成26年度設置	同上
建築学専攻	2	71	142	修士（工学）又は（建築設計学）	1.08	—	平成26年度設置	同上
京都工芸繊維大学・チェンマイ大学国際連携建築学専攻	2	4	8	修士（学術）	0.75	平成29	平成29年度設置	同上
先端ファイブロ科学専攻	2	35	70	修士（工学）	0.86	—	平成18年度改組	同上
バイオベースマテリアル学専攻	2	22	44	修士（工学）	0.72	—	平成22年度設置	同上
工芸科学研究科博士後期課程								
生命物質科学専攻	3	—	—	博士（学術）又は（工学）	—	—	平成18年度改組	同上
バイオテクノロジー専攻	3	6	18	博士（学術）	1.44	—	平成27年度設置	同上
物質・材料化学専攻	3	13	39	博士（学術）又は（工学）	0.76	—	平成27年度設置	同上
電子システム工学専攻	3	5	15	博士（学術）又は（工学）	0.40	—	平成27年度設置	同上
設計工学専攻	3	10	30	博士（学術）又は（工学）	0.76	—	平成18年度改組	同上
造形科学専攻	3	—	—	博士（学術）又は（工学）	—	—	平成18年度改組	同上
デザイン学専攻	3	5	15	博士（学術）又は（工学）	0.80	—	平成26年度設置	同上
建築学専攻	3	7	21	博士（学術）又は（工学）	0.76	—	平成26年度設置	同上
先端ファイブロ科学専攻	3	8	24	博士（学術）又は（工学）	1.12	—	平成18年度改組	同上
バイオベースマテリアル学専攻	3	6	18	博士（工学）	0.44	—	平成24年度設置	同上

- （注）・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学（大学院含む）、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校種ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。（専攻科及び別科を除く）。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。  
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
  - ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
  - ・「平均入学定員超過率」の考え方は「大学設置等に係る提出書類の作成の手引き（平成31年度改訂版）」と同じです。
  - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。



















専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専任	助教	和久 友則 <平成30年4月> 博士(工学)
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報処理演習</li> <li>・有機化学演習</li> <li>・機能分子化学 I</li> <li>・化学基礎実験</li> <li>・学術国際情報</li> <li>・応用化学序論 I</li> <li>・応用化学序論 II</li> <li>・コースゼミ</li> <li>・応用化学実験 I</li> <li>・応用化学実験 II</li> <li>・卒業研究</li> <li>・卒業プロジェクト</li> </ul>

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専任	助教	和久 友則 <平成30年4月> 博士(工学)
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報処理演習</li> <li>・有機化学演習</li> <li>・機能分子化学 I</li> <li>・化学基礎実験</li> <li>・学術国際情報</li> <li>・応用化学序論 I</li> <li>・応用化学序論 II</li> <li>・コースゼミ</li> <li>・応用化学実験 I</li> <li>・応用化学実験 II</li> <li>・卒業研究</li> <li>・卒業プロジェクト</li> </ul>

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専任	助教	和久 友則 <平成30年4月> 博士(工学)
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報処理演習</li> <li>・有機化学演習</li> <li>・機能分子化学 I</li> <li>・化学基礎実験</li> <li>・学術国際情報</li> <li>・応用化学序論 I</li> <li>・応用化学序論 II</li> <li>・コースゼミ</li> <li>・応用化学実験 I</li> <li>・応用化学実験 II</li> <li>・卒業研究</li> <li>・卒業プロジェクト</li> </ul>

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
  - ・ 「認可時又は届出時」には、設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。その上で、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は赤字としてください。**
  - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る届出書類作成の手引き」の「教員名簿」を確認してください。
  - ・ 年齢は、**それぞれの年度の5月1日時点の誕生日**を記入してください。
  - ・ 専任(専門職大学等は専、実専、実(研)、実(実)、実(実)、兼任、兼任の順に記入してください。
  - ・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除し、詰めてください。

(1) 一②担当教員表に関する変更内容

【平成30年度】

- ・ 則末准教授、山雄准教授が教授に昇任（教員審査省略）

【令和元年度】

- ・ 老田教授、柄谷教授が定年退職
- ・ 田中教授、宮本教授が退職
- ・ 小堀准教授、湯村准教授が教授に昇任（教員審査省略）
- ・ 井本助教、木梨助教、山田助教が准教授に昇任（教員審査省略）

- (注) ・ 変更内容を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
  - ・ 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度（平成29年度開設であれば平成28年度）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要専 任教員数	うち、完成年度時 における設置基準上 の必要教授数
11 名	6 名

(注) ・ 大学設置基準第十三条別表第一、短期大学設置基準第二十二條別表第一イにより算出される専任教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員数【大学】

設置時の計画					現在（報告時）の状況				
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (A)	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (B)
26	22	0	17	65	23	22	0	15	60
( 25 )	( 21 )	( 0 )	( 18 )	( 64 )					
現在（報告時）の完成年度時の状況					現在（報告時）の完成年度時の計画				
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (C)	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (D)
23	22	0	15	60	26	22	0	17	65
[ Δ3 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	[ Δ2 ]	[ Δ5 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、( ) 内に開設時の状況を記入してください。  
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。  
 ・ 「**現在（報告時）の完成年度時の状況**」には、「**現在（報告時）の状況**」に記入した数字に、**教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入**するとともに、[ ] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）  
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[ ] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記 (B)）の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数	完成年度時（上記 (C)）の教員う ち、定年を延長し て採用する教員数
65 歳	0 名	0 名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、および、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。  
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。  
 [ ] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{60}{65} = \boxed{92.3} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{0}{60} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) -① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由			
平成30年度、令和元年度 該当なし										
合計 (D)				後任補充状況の集計 (E)						
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。  
 ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) -②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。  
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。  
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」  
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」  
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) -② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由			
1	教授	田中 直毅	H30.11	選択	物理化学Ⅲ(平衡と速度論)	①	H30.11.13付け、死亡による退職(元)			
				必修	物理化学演習	①				
				選択	機能分子化学Ⅱ	①				
				必修	化学基礎実験	①				
				必修	学術国際情報	①				
				必修	応用化学序論Ⅰ	①				
				必修	応用化学序論Ⅱ	①				
				必修	コースゼミ	①				
				必修	応用化学実験Ⅰ	①				
				必修	応用化学実験Ⅱ	①				
				必修	卒業研究	①				
必修	卒業プロジェクト	①								
2	教授	宮本 真敏	H31.3	選択	高分子化学	①	H31.3.31付け、自己都合による辞任(元)			
				必修	化学基礎実験	①				
				必修	学術国際情報	①				
				必修	応用化学序論Ⅰ	①				
				必修	応用化学序論Ⅱ	①				
				必修	コースゼミ	①				
				必修	応用化学実験Ⅰ	①				
				必修	応用化学実験Ⅱ	①				
必修	卒業研究	①								
必修	卒業プロジェクト	①								
合計 (F)				後任補充状況の集計 (G)						
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
2	人	必修	19	科目	必修	19	科目	必修	0	科目
		選択	3	科目	選択	3	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	22	科目	計	22	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について記入してください。  
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。  
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」  
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」  
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」



(3) - ③ 上記 (3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計 (D) + (F)			後任補充状況の集計 (E) + (G)					
辞任等した教員数	担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
2 人	必修	19 科目	必修	19 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
	選択	3 科目	選択	3 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
	計	22 科目	計	22 科目	計	0 科目	計	0 科目

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計}(D) + (F)}{(2) - ② \text{設置時の計画}(A)} = \frac{2}{65} = \boxed{3.07} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由		
1	教授	老田 達生	必修	化学基礎実験	①	H31.3.31付け65歳で定年退職 (元)		
			必修	学術国際情報	①			
			必修	応用化学序論Ⅰ	①			
			必修	応用化学序論Ⅱ	①			
			必修	コースゼミ	①			
			必修	応用化学実験Ⅰ	①			
			必修	応用化学実験Ⅱ	①			
			必修	卒業研究	①			
2	准教授	柄谷 肇	必修	卒業プロジェクト	①	H31.3.31付け65歳で定年退職 (元)		
			選択	分析化学	①			
			必修	化学基礎実験	①			
			必修	学術国際情報	①			
			必修	応用化学序論Ⅰ	①			
			必修	応用化学序論Ⅱ	①			
			必修	コースゼミ	①			
			必修	応用化学実験Ⅰ	①			
			必修	応用化学実験Ⅱ	①			
			必修	卒業研究	①			
合計			後任補充状況の集計					
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)
2 人	必修	18 科目	必修	18 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
	選択	1 科目	選択	1 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
	計	19 科目	計	19 科目	計	0 科目	計	0 科目

- (注) ・ 定年により退職した全ての専任教員について記入してください。  
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および ( ) 書きで報告年度を記入してください。  
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- |   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専任教員が担当する (している) 場合は「①」</li> <li>・ 兼任兼担教員が担当する (している) 場合は「②」</li> <li>・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」</li> </ul> |
|---|

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

<p>辞任教員及び定年退職教員が担当していた全ての科目について他の専任教員が担当しており、学生指導に不足はない状態であり、学生に対しては、教科課程公表の際に当該教員が退職した旨周知している。</p>
---

- (注) ・ 上記 (3) の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能なかぎり具体的に記入してください。

## 6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今 後 の の 実 施 計 画
設 置 時 (平成29年)	該当なし		
設置計画履行状況 調 査 時 (平成30年)	該当なし		

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
  - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
  - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
  - ・ 「設置計画履行状況調査時」には、調査結果が公表された年度の年を記入してください。

## 7 その他全般的事項

<工芸科学部 応用化学課程>

### (1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
特になし	

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

### (2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

#### ① 実施体制

##### a 委員会の設置状況

本学では、教育システム全般について包括的に調査・分析し、企画、立案、実施する組織として、総合教育センターを設置しています。  
総合教育センターは、教育プログラム部会、教育評価・FD部会、地域連携教育部会の3部会を統括しており、FD活動の実施や検討及び審議に関しては、教育評価・FD部会が中心的な役割を担っています。

##### b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

平成30年度は、次のとおり教育評価・FD部会を開催しました。

平成30年7月31日(火)

議題

1. 総合教育センター 教育評価・FD部会の組織及び業務内容等について
2. 平成30年度年度計画について
3. 平成30年度FD事業一覧、スケジュールについて
4. 平成30年度第1回教員FD研修会の実施について
5. 「総合教育センター教育評価・FD部会報告書2017」の原稿確認について
6. 大学院博士前期課程（修士課程）へのGPA導入について

報告

1. 平成29年度FD事業報告について
2. 平成30年度FD事業について

平成31年1月30日(水)

議題

1. 平成30年度 第2回 教員FD研修会について

報告

1. 平成30年度 第1回 教員FD研修会実施報告について【報告資料1】
2. 平成30年度FD事業報告について
3. 高等教育段階の教育費負担軽減新制度への対応について

なお、部会構成員は次のとおりであり、部会の出席率はほぼ100%です。

総合教育センター副センター長	1名
各副学域長	7名
各副課程長	11名
各副専攻長	13名
各副学科目長	3名
学務課長	1名
学長が指名する者	若干名
合計	36名+若干名

c 委員会の審議事項等

教育評価・FD部会の審議事項は次のとおりです。

- (1) 教育実態及び教育成果の調査方法の検討に関すること
- (2) 授業評価の実施及び分析に関すること
- (3) 教育改善についての研修会・講演会等の実施(新人教員の研修を含む)に関すること
- (4) 授業公開の実施及び分析に関すること
- (5) 教育懇談会、卒業生・修了生調査協力者会議の実施に関すること
- (6) 成績評価法の研究に関すること
- (7) 大学評価室との連携に関すること
- (8) 教育に対する自己点検・自己評価に関すること
- (9) その他関連事項

② 実施状況

a 実施内容

- (1) 授業公開
- (2) 担当授業科目アンケート
- (3) 教員FD研修会
- (4) 大学コンソーシアム京都主催の各種FD連携活動への参画

b 実施方法

- (1) 教員相互の授業参観(授業公開)
- (2) 教員による担当授業科目アンケート
- (3) 教員FD研修会
- (4) 大学コンソーシアム京都主催の各種FD連携活動への参画

c 開催状況(教員の参加状況含む)

(1) 授業公開

- ・ 毎学期(前学期は6月、後学期は12月)、学部・大学院の全授業科目を対象として実施
- ・ 参観後は参観者・授業担当者双方がレポートを提出

■前学期/春学期の授業公開

実施期間：平成30年5月28日～6月22日  
参観科目数：36科目  
参観者数(延べ人数)：42名

■後学期/秋学期の授業公開

実施期間：平成30年11月12日～12月7日  
参観科目数：38科目  
参観者数(延べ人数)：46名

(2) 担当授業科目アンケート

- ・ 『受講者確認/成績入力Webシステム』を利用し、毎学期の成績報告に合わせてWeb上で実施

■前学期/春学期の教員による授業評価

実施期間：平成30年7月2日～8月20日  
アンケート回答科目数：324科目  
アンケート回答教員数：210名  
アンケート回答率(科目)：55.8%  
アンケート回答率(教員)：75.0%

■後学期/秋学期の教員による授業評価

実施期間：平成31年1月9日～2月18日  
アンケート回答科目数：302科目  
アンケート回答教員数：181名  
アンケート回答率(科目)：54.6%  
アンケート回答率(教員)：64.6%

### (3) 教員FD研修会

#### ■平成30年度第1回教員FD研修会

開催日：平成30年11月22日（木）10：00～12：00

開催場所：本学

内容：第1部 海外教育連携事業における派遣教員による講演

内 容：海外大学において実施した教育活動の概要、海外大学と本学の教育方法の比較  
（参考にすべき点、本学の優れた点など）

講演者：繊維学系 麻生祐司先生、デザイン・建築学系 池側隆之先生

第2部 講演・パネルディスカッション「障害のある学生への「合理的配慮」  
～発達障害・精神障害学生への有効な支援方法とは～」

講演者：藤川洋子先生（司会）

門 眞一郎先生（精神科医）

水野 修先生（指導教員）

稲葉宏幸先生（研究担当教員） 他

参加者：74名

#### ■平成30年度第2回教員FD研修会

実施日時：平成31年3月8日（金）10：00～12：00

開催場所：本学

内容：第1部 Moodle等のネットワークサービスを用いた教育に関する講演

内 容：ネットワークサービスを活用した授業の例として、Webベースの学習管理システム  
Moodle、および授業を補足する解説動画の作成と使用例、さらに中丹地区社会人教育に  
おけるTV会議システムを使った授業について

講演者：電気電子工学系 島崎仁司先生、情報科学センター 森真幸先生

第2部 京都発人材育成エコシステムの創り方

内 容：大学界も経済界も新しい発想での人材育成の必要性について、NPO法人グローバル人材開発  
センターによる講演

講演者：特定非営利活動法人グローバル人材開発センター 事務局長

京都産業大学 法学研究科法政策学専攻 中谷 真憲 教授

参加者：62名

#### ■各課程・専攻等におけるFD研修

開催日：平成30年11月22日～平成31年1月31日

開催母体：各課程、独立専攻及び学科目（全14組織）

内容：第1回教員FD研修会で配付された資料を用いた情報共有や意見交換の実施。

参加者数（参加率）：169名（57.9%）

#### ■教員のFD活動参加率

265名（90.8%）

### (4) 大学コンソーシアム京都主催の各種FD連携活動への参画

#### ■大学コンソーシアム京都主催の各種FD連携活動への参画

(1) 新任教員FD合同研修

〔新任教員を対象とした授業デザインや成績評価のためのワークショップ〕

※本学では主な参加対象を採用後3年以内の教員としている

<第1回>

日 時：2018年9月29日（土）13：00～17：15

会 場：キャンパスプラザ京都 2階 ホール

テーマ：①「大学コミュニティについて」

講師：大学コンソーシアム京都事務局

②「FDの基礎知識ー持続的な能力開発に向けてー」

講師：耳野 健二氏（京都産業大学現代社会学部教授）

③「授業デザインのための基礎知識・ワークショップ」

講師：浅田 瞳氏（華頂短期大学幼児教育学科准教授）

講師：岡本 信照氏（京都外国語大学外国語学部教授）

<第2回>

日 時：2018年10月13日（土）13：00～18：00

会 場：キャンパスプラザ京都 5階 第2演習室

テーマ：「授業設計・授業実践ワークショップ」

講師：阿部 一晴氏（京都光華女子大学キャリア形成学部教授）

<第3回>

日時：2018年11月12日（月）18：00～20：00  
会場：池坊短期大学 洗心館 6階 第1会議室  
テーマ：「成績評価のための基礎知識・ワークショップ」  
講師：藤原 学 氏（龍谷大学理工学部教授）

<第4回>

日時：2019年1月21日（月）18：00～20：00  
会場：池坊短期大学 洗心館 6階 第1会議室  
テーマ：「学習支援・特別支援ワークショップ」  
講師：村田 淳 氏（京都大学学生総合支援センター准教授）

<第5回>

日時：2019年2月4日（月）18：00～20：00  
会場：池坊短期大学 洗心館 6階 第1会議室  
テーマ：「学習者中心の授業ワークショップ」  
講師：澤田 美恵子 氏（京都工芸繊維大学基盤科学系教授）  
講師：松本 真治 氏（佛教大学文学部教授）  
講師：森 希理恵 氏（平安女学院大学短期大学部保育科准教授）

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

(1) 授業公開

授業公開は平成16年度から実施しており、参加者数向上のために、都度対象科目の拡大や実施期間の延長等の策を講じています。

レポートのコメントからも、参観する、あるいは参観される教員双方にとって、自らの授業方法を改めて見つめ直す端緒となり、また、関連する授業科目間の連携や補完関係を深めるための契機となっています。

(2) 担当授業科目アンケート

教員による担当授業科目アンケートは、平成20年1月に平成19年度開講授業担当者を対象に試行で実施し、その結果を踏まえ、平成20年度前学期からは毎学期末に実施しています。

平成22年度からは『受講者確認／成績入力システム』（Webシステム）を利用して、教員が担当科目の成績を報告（入力）する際に、あわせてアンケートに回答する仕組みを導入したため、回答率が大幅に向上し、以後高い水準を維持しています。

アンケートに回答する教員自身の振り返りや気づきになると共に、アンケート集計結果をWeb上で学内に公開することで、授業への有効な取り組み方について情報共有を図っています。

(3) 教員FD研修会

本学では、長年にわたって大学教育の質の向上を目的としたFD活動を行っており、その取り組みの一環として毎年教員FD研修会を開催しています。

近年、参加者数が40名程度にとどまっていたことから、平成27年度より、アンケート等で教員から要望のあったテーマを基に、年2回開催することとしました。結果的にほぼ全ての教員組織から毎回60名を超える参加があり、学内的に大きな広がりを見せました。

特に、FD部会委員（副課程長、副専攻長、副学科目長）をリーダーとして、教員FD研修会で学んだ知識やノウハウについて、資料を用いて、課程、専攻、学科目内で二次的な研修会等を実施したところ、参加者数は約200名を記録し、FD活動への高い関心を示しています。

今後も、その時々教員のニーズやトピック的な事案をテーマとして、効果的な教育方法を検討するための一助となるような研修会を実施する必要があると考えています。

(4) 大学コンソーシアム京都主催の各種FD連携活動への参画

大学コンソーシアム京都では、単独では実施することが困難な体系的なFD研修プログラムの実施をはじめ、さまざまな実質的なFD取り組みを実現させるため、平成20年度文部科学省「戦略的FD連携支援事業」に採択された「地域内大学連携によるFDの包括研究と共通プログラム開発・組織的運用システムの確立」により佛教大学を代表校とする18大学・短期大学と共に京都地域におけるFD活動を推進してきました。

当該事業は平成23年度で補助金事業としては一旦終了しましたが、翌年度からはその事業成果を引き継ぎ、大学コンソーシアム加盟50大学での取組へと活動を広げていくことになりました。

特に新任教員には、大学コンソーシアム京都が主催する新任教員FD合同研修プログラムの受講を推奨しており、受講者からは「大変有意義な研修であった」「他大学の教員との交流が刺激になった」等、肯定的な感想が多く見受けられます。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

■実施の有無

本学では、平成15年度から学生による授業評価アンケートを実施しています。

■実施時期

前（春）学期：平成30年7月9日～10月10日

後（秋）学期：平成31年1月9日～4月11日

b 教員や学生への公開状況、方法等

■実施方法

本学では平成28年度より、紙媒体でのアンケートを廃止し、Web方式に移行しました。授業評価アンケートに回答していれば、当該学期の成績が確認出来る仕組みを構築したため、90%を超える高い回答率を維持しています。

加えて、事前準備、集計作業に伴う業務負担の軽減や費用の削減、教員や学生に対する早期の集計結果フィードバック、欠席者のアンケートが集計可能になるなど、多くの成果が上がりました。

平成30年度の実施状況は次のとおりです。

(1) 前（春）学期

対象科目：すべての開講科目

アンケート回答科目数：学部 654科目

大学院 297科目

合計 951科目

アンケート回答率（科目）：学部 97.2%

大学院 79.9%

合計 91.0%

(2) 後（秋）学期

対象科目：すべての開講科目

アンケート回答科目数：学部 613科目

大学院 254科目

合計 867科目

アンケート回答率（科目）：学部 94.89%

大学院 83.01%

合計 91.07%

■公開状況

集計結果は、次の方法で教員や学生に公開しています。

【学務課ホームページ（学生・教職員専用ページ）】

- ・回答率や全設問の回答平均値（科目名・担当教員名も公開）

【担当教員へのフィードバック】

- ・科目毎の集計表（各設問評価毎の人数、グラフなど）
- ・科目毎の回答一覧表（回答者毎の回答内訳）

【FD報告書に掲載（隔年発行）】

- ・全体回答平均値経年推移
- ・科目分類別（全学共通/専門基礎・導入/課程専門）全体平均値

(注) ・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

該当なし

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

1. 一般入試の志願状況について

平成31年2月および3月実施の入学試験が応用化学課程にとって2回目の入学試験であった。出願者数、受験者数を平成30年実施の試験とあわせて表1にまとめた。前期入試では、2年目の募集となる今年は、出願倍率が2.9から3.2倍へと上昇し、応用化学課程の設置が受験生に対して好感をもたれていることが伺える。後期入試では、受験倍率は5.0であった。初年度の実験倍率6.0よりは低い値ではあるが、後期は他大学との併願による未受験という要因がからむため、また18歳人口が減少している点を鑑みれば、ほぼ前年と同程度の倍率であると見なしている。

表1

日程	年度	募集人員	出願者数	出願倍率	受験者数	受験倍率
前期	平成30年	105	309	2.9	302	2.9
	平成31年	105	331	3.2	318	3
後期	平成30年	42	475	11.3	252	6
	平成31年	42	422	10	223	5

2. 教育内容について

平成30年度は応用化学課程の第一期生が1年次の講義を履修した年である。1年次から2年次前期までは、コースに分かれることなく一様に全学共通科目および専門基礎科目を学ぶカリキュラムとなっている。専門基礎科目は、物理化学、有機化学、無機化学、分析化学、化学工学などの幅広い分野の講義からなっている。これらの専門基礎科目は、最先端の科学技術や物質・材料を探究するための基礎的総合力を培うための科目群として、応用化学課程への組織改革以前より提供されていたものであり、その教育意義は応用化学課程にも引き継がれるものである。一方、応用化学課程となって新しく提供された1年次配当科目にコース共通の課程専門科目「応用化学序論I」がある。この講義は、コースごとの特色や専門性に対する基礎的理解を深めるためのものである。講義終了後の授業評価アンケートでは、「研究の内容に関心を持ってだけでなく、自身の進路についても考えることができた。」、「各コースの特徴や、どんな研究をしているか、詳しく知ることができた。」、「応用化学課程の4つのコースがよくわかりました。」、「毎回興味をひく内容で、楽しく学ぶことができた。」、「将来、配属される研究室がどんな研究をしているかが分かって興味が湧いた。」などの感想が寄せられ、応用化学課程として新しく提供する講義の意図が学生にしっかりと伝わっているとの感触が得られている。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

・平成30年3月 公表

b 公表方法

・大学ホームページ上に公開

③ 認証評価を受ける計画

・平成33年度に評価機関（大学改革支援・学位授与機構）の評価を受けるべく、学内で検討中。

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和元年度）

a ホームページへの公表予定の有無 (  有 ・  無 )

b 公表有の場合の公表（予定）時期 ( 令和元年6月末 )

b 公表無の場合の特段の理由 ( )

(注) ・ 今後公表する予定の場合は、「有」にマルを記入してください。今後も公表する予定がない場合は、「無」にマルを記入してください。



# 1 調査対象大学等の概要等

## (1) 設置者

国立大学法人 京都工芸繊維大学

## (2) 大学名

京都工芸繊維大学

## (3) 調査対象大学等の位置

〒606-8585  
京都府京都市左京区松ヶ崎橋上町1番地

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を( )書きで記入してください。  
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

## (4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
学長	(モリサコ キヨタカ) 森迫 清貴 (平成30年4月1日)		
理事	(ツツミ ナオト) 堤 直人 (平成30年4月1日)		
	(ヨシモト マサヒロ) 吉本 昌広 (平成30年4月1日)		
	(ワタナベ ヒデキ) 渡部 英樹 (平成28年4月1日)	(イヌイ ケンイチ) 乾 賢一 (平成31年4月1日)	新規就任(元)
		(オノ ヨシロウ) 小野 芳朗 (平成30年7月1日)	新規就任(元)
学部長	(マエダ コウジ) 前田 耕治 (平成30年4月1日)		
課程長	(ナカノ ヨシト) 中野 仁人 (平成30年4月1日)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を( )書きで記入してください。

(例) 平成30年度に報告済の内容 → (30)

令和元年度に報告する内容 → (元)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告

された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。

- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください（入試区分ごとではありません）。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。
- ・ 様式は、平成27年度開設の4年制の学科の完成年度を超えて報告する場合（令和元年度までの5年間）ですが、完成年度を超えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。（修業年限が4年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。）
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称（学位）	学位又は学科の分野	設置時の計画				備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
工芸学部 デザイン・建築学課程 学士（工学）	工学関係	4年	156人	3年次人 13人	650人	

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を（ ）書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「備考」にその旨記載してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要（別記様式第2号（その2の1））」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	対象年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		平均入学定員超過率	開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	156 ( - ) [若干名]	-	156 ( - ) [若干名]	-									1.02倍	-	
志願者数	1062 ( - ) [ 22 ]	-	951 ( - ) [ 23 ]	-											
受験者数	925 ( - ) [ 19 ]	-	823 ( - ) [ 22 ]	-											
合格者数	170 ( - ) [ 6 ]	-	166 ( - ) [ 3 ]	-											
B 入学者数	162 ( - ) [ 2 ]	-	159 ( - ) [ 1 ]	-											
入学定員超過率 B/A	1.04		1.01												

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
- ・ （ ）内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、（（ ）書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ [ ]内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお、計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「-」を記入してください。

(5) -③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	161 [2] (-)	- [-] (-)	159 [1] (-)	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	
2年次	/		161 [2] (-)	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	
3年次			/		/		[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )
4年次	/						/		/		[ ] ( )
計			161 [ 2 ] ( - )		320 [ 3 ] ( - )	[ ] ( )					[ ] ( )

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ [ ]内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
  - ・ ( )内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
  - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
  - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学の実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
  - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[ ]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成30年度	162人	1人	平成30年度	1人	0人	他の教育機関への入学・転学
令和元年度	320人	0人	平成30年度	0人	0人	
			令和元年度	0人	0人	
令和2年度	人	人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
令和3年度	人	人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
令和4年度	人	人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
			令和4年度	人	人	
合計		1人		人	人	

(注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。  
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学  
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{1}{162} = \boxed{0.61} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{320} = \boxed{0} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【令和4年度】

$$\frac{\text{令和4年度の退学者数(a)}}{\text{令和4年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

## 2 授業科目の概要

＜工芸科学部 デザイン・建築学課程＞

### (1) ① 授業科目表

#### 【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
英語	Interactive English A	1前	1								6
	Interactive English B	1後	1								6
	Career English Basic	1前	1								5
	Academic English	1後	1								4
	Career English Intermediate	2前・後	1								4
	Career English Advanced	2前・後	1								4
	Active English CLIL	2前・後		1							4
	Active English Listening & Speaking I	2前・後		1							6
	Active English Listening & Speaking II	2前・後		1							4
	Active English Reading I	2前・後		1							4
	Active English Reading II	2前・後		1							8
	Active English Writing I	2前・後		1							4
	Active English Writing II	2前・後		1							4
	Active English Project-Based Learning	2前・後		1							2
ドイツ語	ドイツ語初級基礎A	1前		1							4
	ドイツ語初級基礎B	1後		1							4
	ドイツ語初級演習A	1前		1							4
	ドイツ語初級演習B	1後		1							4
	ドイツ語中級A	2前		1							2
	ドイツ語中級B	2後		1							2
	ドイツ語上級A	3前		1							2
	ドイツ語上級B	3後		1							2
フランス語	フランス語初級基礎A	1前		1							4
	フランス語初級基礎B	1後		1							4
	フランス語初級演習A	1前		1							3
	フランス語初級演習B	1後		1							3
	フランス語中級A	2前		1							2
	フランス語中級B	2後		1							2
	フランス語上級A	3前		1							1
	フランス語上級B	3後		1							1
中国語	中国語初級基礎A	1前		1							3
	中国語初級基礎B	1後		1							3
	中国語初級演習A	1前		1							2
	中国語初級演習B	1後		1							2
	中国語中級A	2前		1							2
	中国語中級B	2後		1							2
小計(36科目)		6	30	0	0	0	0	0	0	0	48
工芸科学基礎	工芸科学基礎	1前		1		1					4
	キャリア教育基礎	1前		1							2
	KITスタンダード	1後		2							6
	学習・キャリア戦略論	1後		2							1
	国際理解	1前		1		1					1
	人権教育	1前		2							1
	地球環境論	1前		2							1
	環境マネジメント	3前		1							2
	環境問題と持続可能な社会	1前		2							1
	環境と法	1後		2							1
	環境論	1後		2							1
情報セキュリティと情報倫理	情報セキュリティと情報倫理	1後		2							3
	生命倫理と環境倫理	2前		2							1
	テクノロジー論	2後		2							1
	現代科学と倫理	1前		2							1

#### 【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
英語	Interactive English A	1前	1								10
	Interactive English B	1後	1								10
	Career English Basic	1前	1								7
	Academic English	1後	1								6
	Career English Intermediate	2前・後	1								8
	Career English Advanced	2前・後	1								6
	Active English CLIL	2前・後		1							2
	Active English Listening & Speaking I	2前・後		1							7
	Active English Listening & Speaking II	2前・後		1							4
	Active English Reading I	2前・後		1							3
	Active English Reading II	2前・後		1							2
	Active English Writing I	2前・後		1							4
	Active English Writing II	2前・後		1							1
	Active English Project-Based Learning	2前・後		1							2
ドイツ語	ドイツ語初級基礎A	1前		1							2
	ドイツ語初級基礎B	1後		1							2
	ドイツ語初級演習A	1前		1							2
	ドイツ語初級演習B	1後		1							2
	ドイツ語中級A	2前		1							2
	ドイツ語中級B	2後		1							2
	ドイツ語上級A	3前		1							2
	ドイツ語上級B	3後		1							2
フランス語	フランス語初級基礎A	1前		1							4
	フランス語初級基礎B	1後		1							4
	フランス語初級演習A	1前		1							3
	フランス語初級演習B	1後		1							3
	フランス語中級A	2前		1							2
	フランス語中級B	2後		1							2
	フランス語上級A	3前		1							1
	フランス語上級B	3後		1							1
中国語	中国語初級基礎A	1前		1							1
	中国語初級基礎B	1後		1							1
	中国語初級演習A	1前		1							1
	中国語初級演習B	1後		1							1
	中国語中級A	2前		1							2
	中国語中級B	2後		1							2
小計(36科目)		6	30	0	0	0	0	0	0	0	45
工芸科学基礎	工芸科学基礎	1前		1		1					5
	キャリア教育基礎	1前		1							2
	KITスタンダード	1後		2			0				10
	学習・キャリア戦略論	1後		2							1
	国際理解	1前		1							2
	人権教育	1前		2							1
	地球環境論	1前		2							1
	環境マネジメント	3前		1							2
	環境問題と持続可能な社会	1前		2							1
	環境と法	1後		2							1
	環境論	1後		2							1
情報セキュリティと情報倫理	環境と法	1後		2							1
	<b>環境論</b>	1後		2							1
	<b>エネルギー科学</b>	1後		2							1
	情報セキュリティと情報倫理	1後		2							3
	生命倫理と環境倫理	2前		2							1
テクノロジー論	2後		2							1	
現代科学と倫理	1前		2							1	



科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
人文学	哲学	1後	2								1
	歴史学	1後	2								2
	舞台芸術論	3前	2								1
	日本近代精神史	1前	2								1
	美と芸術	1前	2				1				
	比較宗教学	1前	2								1
	西洋文学論	1前	2								1
	日本近現代文学	1前	2								1
	科学と思想(リハラルアーツ・セミナー)	1後	2								1
	東西文化交流史	1後	2								1
	西洋文化論	1後	2								1
	日本史	1前	2								1
	フランス語圏の文化とジャポニスム	2前	2								1
	アジアの歴史と文化	1前	2								1
	ヨーロッパの歴史と文化	1後	2								3
	映画で学ぶ英語と文化	3後	2								1
	映画で学ぶドイツ語と文化	3前	2								1
	日本文学Ⅰ	1前	2								1
	日本文学Ⅱ	1後	2								1
	ラテン語	1後	2								1
文芸創作論	1後	2								1	
現代社会に学ぶ問う力・書く力(リハラルアーツ・セミナー)	1前・後	2								1	
感性の実践哲学(リハラルアーツ・セミナー)	1前	1								1	
人と自然と数学α	1前	2								1	
人と自然と数学β	1後	2								1	
人と自然と物理学	1後	2								2	
化学概論Ⅰ	1前	2								1	
化学概論Ⅱ	1後	2								1	
生物学概論Ⅰ	1前	2								1	
生物学概論Ⅱ	1後	2								1	
地球の科学	1後	2								1	
エネルギー科学	1前	2								1	
科学史	1後	2								1	
物理学Ⅰ	1前	2								1	
食と健康の科学	1前	2								4	
生命科学講話	1前	2								15	
時間生物学特論	3前	2								1	
生物学的人間学	1前	2								1	
医学概論	2後	2								1	
意外と知らない植物の世界	1後	2			1		1			3	
製品の機能から科学を学ぶ(リハラルアーツ・セミナー)	1後	2								1	
小計(64科目)			0	124	0	1	1	1	0	0	81
体の科学	キャンパスヘルス概論	1前	2								1
	健康体力科学	2後	2								2
	生涯スポーツ	2前・後	2								5
	生体行動科学	2前	2								2
	スポーツ科学Ⅰ	1前	2								6
	スポーツ科学Ⅱ	1後	2								3
小計(6科目)			0	12	0	0	0	0	0	0	9

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
人文学	哲学	1後	2								1
	歴史学	1後	2								2
	舞台芸術論	3前	2								1
	日本近代精神史	1前	2								1
	美と芸術	1前	2				1				
	比較宗教学	1前	2								1
	西洋文学論	1前	2								1
	日本近現代文学	1後	2								1
	科学と思想(リハラルアーツ・セミナー)	1後	2								1
	東西文化交流史	1後	2								1
	西洋文化論	1後	2								1
	日本史	1前	2								1
	フランス語圏の文化とジャポニスム	2前	2								1
	アジアの歴史と文化	1前	2								1
	ヨーロッパの歴史と文化	1後	2								3
	映画で学ぶ英語と文化	3後	2								1
	映画で学ぶドイツ語と文化	3前	2								1
	日本文学Ⅰ	1前	2								1
	日本文学Ⅱ	1後	2								1
	ラテン語	1後	2								1
文芸創作論	1後	2								1	
現代社会に学ぶ問う力・書く力(リハラルアーツ・セミナー)	1前	2								1	
感性の実践哲学(リハラルアーツ・セミナー)	1前	1								1	
人と自然と数学α	1前	2								1	
人と自然と数学β	1後	2								1	
人と自然と物理学	1後	2								3	
化学概論Ⅰ	1前	2								1	
化学概論Ⅱ	1後	2								1	
生物学概論Ⅰ	1前	2								1	
生物学概論Ⅱ	1後	2								1	
地球の科学	1後	2								1	
エネルギー科学	1前	2								1	
科学史	1後	2								1	
物理学Ⅰ	1前	2								1	
食と健康の科学	1前	2								4	
生命科学講話	1前	2								15	
時間生物学特論	3前	2								1	
生物学的人間学	1前	2								1	
医学概論	2後	2								1	
意外と知らない植物の世界	1後	2			0		1	1		3	
レーザーで測る、知る、楽しむ(リハラルアーツ・セミナー)	1前	2								1	
京都の防災と府民	1後	2			1		1			1	
製品の機能から科学を学ぶ(リハラルアーツ・セミナー)	1後	2								1	
小計(64科目)			0	125	0	1	2	1	1	0	77
体の科学	キャンパスヘルス概論	1前	2								1
	健康体力科学	2後	2								2
	生涯スポーツ	2前・後	2								3
	生体行動科学	2前	2								2
	スポーツ科学Ⅰ	1前	2								6
	スポーツ科学Ⅱ	1後	2								3
小計(6科目)			0	12	0	0	0	0	0	0	10









**一般プログラム(デザイン)**

英語必修6単位を含み言語教育科目から12単位以上、工芸科学教養科目の選択科目から10単位以上と基本教養科目の選択科目から6単位以上とを合わせて人間教養科目22単位以上、専門導入科目4単位、専門基礎科目の選択科目から6単位以上、課程専門科目の卒業研究8単位、選択科目から26単位以上(マネジメント論科目及びエンジニアリング論科目から、それぞれ2単位以上修得した上で合計8単位以上修得すること)を修得し、専門教育科目90単位以上及び合計134単位以上修得すること。

(履修科目の登録の上限:50単位(年間))

**地域創生Tech Program(デザイン)**

英語必修6単位を含み言語教育科目から12単位以上、工芸科学教養科目の選択科目から10単位以上と基本教養科目の選択科目から6単位以上とを合わせて人間教養科目22単位以上、専門導入科目5単位、専門基礎科目の選択科目から6単位以上、課程専門科目の必修科目6単位と卒業プロジェクト(8単位)の14単位、選択科目から26単位以上(マネジメント論科目及びエンジニアリング論科目から、それぞれ2単位以上修得した上で合計8単位以上修得すること)を修得し、専門教育科目90単位以上及び合計134単位以上修得すること。

(履修科目の登録の上限:50単位(年間))

**一般プログラム(建築)**

英語必修6単位を含み言語教育科目から12単位以上、工芸科学教養科目の選択科目から10単位以上と基本教養科目の選択科目から6単位以上とを合わせて人間教養科目22単位以上、専門導入科目4単位、専門基礎科目の選択科目から4単位以上、課程専門科目の卒業研究の8単位、選択科目から18単位以上を修得し、専門教育科目90単位以上及び合計134単位以上修得すること。

(履修科目の登録の上限:50単位(年間))

**地域創生Tech Program(建築)**

英語必修6単位を含み言語教育科目から12単位以上、工芸科学教養科目の選択科目から10単位以上と基本教養科目の選択科目から6単位以上とを合わせて人間教養科目22単位以上、専門導入科目5単位、専門基礎科目の選択科目から4単位以上、課程専門科目の必修科目6単位と卒業プロジェクト(8単位)の14単位、選択科目から18単位以上を修得し、専門教育科目90単位以上及び合計134単位以上修得すること。

(履修科目の登録の上限:50単位(年間))

**一般プログラム(デザイン)**

英語必修6単位を含み言語教育科目から12単位以上、工芸科学教養科目の選択科目から10単位以上と基本教養科目の選択科目から6単位以上とを合わせて人間教養科目22単位以上、専門導入科目4単位、専門基礎科目の選択科目から6単位以上、課程専門科目の卒業研究8単位、選択科目から26単位以上(マネジメント論科目及びエンジニアリング論科目から、それぞれ2単位以上修得した上で合計8単位以上修得すること)を修得し、専門教育科目90単位以上及び合計134単位以上修得すること。

(履修科目の登録の上限:50単位(年間))

**地域創生Tech Program(デザイン)**

英語必修6単位を含み言語教育科目から12単位以上、工芸科学教養科目の選択科目から10単位以上と基本教養科目の選択科目から6単位以上とを合わせて人間教養科目22単位以上、専門導入科目5単位、専門基礎科目の選択科目から6単位以上、課程専門科目の必修科目6単位と卒業プロジェクト(8単位)の14単位、選択科目から26単位以上(マネジメント論科目及びエンジニアリング論科目から、それぞれ2単位以上修得した上で合計8単位以上修得すること)を修得し、専門教育科目90単位以上及び合計134単位以上修得すること。

(履修科目の登録の上限:50単位(年間))

**一般プログラム(建築)**

英語必修6単位を含み言語教育科目から12単位以上、工芸科学教養科目の選択科目から10単位以上と基本教養科目の選択科目から6単位以上とを合わせて人間教養科目22単位以上、専門導入科目4単位、専門基礎科目の選択科目から4単位以上、課程専門科目の卒業研究の8単位、選択科目から18単位以上を修得し、専門教育科目90単位以上及び合計134単位以上修得すること。

(履修科目の登録の上限:50単位(年間))

**地域創生Tech Program(建築)**

英語必修6単位を含み言語教育科目から12単位以上、工芸科学教養科目の選択科目から10単位以上と基本教養科目の選択科目から6単位以上とを合わせて人間教養科目22単位以上、専門導入科目5単位、専門基礎科目の選択科目から4単位以上、課程専門科目の必修科目6単位と卒業プロジェクト(8単位)の14単位、選択科目から18単位以上を修得し、専門教育科目90単位以上及び合計134単位以上修得すること。

(履修科目の登録の上限:50単位(年間))

【平成30年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
英語	Interactive English A	1前	1								10
	Interactive English B	1後	1								10
	Career English Basic	1前	1								7
	Academic English	1後	1								6
	Career English Intermediate	2前・後	1								8
	Career English Advanced	2前・後	1								5
	Active English CLIL	2前・後		1							2
	Active English Listening & Speaking I	2前・後		1							7
	Active English Listening & Speaking II	2前・後		1							4
	Active English Reading I	2前・後		1							5
	Active English Reading II	2前・後		1							3
	Active English Writing I	2前・後		1							4
	Active English Writing II	2前・後		1							1
	Active English Project-Based Learning	2前・後		1							2
ドイツ語	ドイツ語初級基礎A	1前		1							2
	ドイツ語初級基礎B	1後		1							2
	ドイツ語初級演習A	1前		1							2
	ドイツ語初級演習B	1後		1							2
	ドイツ語中級A	2前		1							2
	ドイツ語中級B	2後		1							2
	ドイツ語上級A	3前		1							2
	ドイツ語上級B	3後		1							2
フランス語	フランス語初級基礎A	1前		1							4
	フランス語初級基礎B	1後		1							4
	フランス語初級演習A	1前		1							3
	フランス語初級演習B	1後		1							3
	フランス語中級A	2前		1							2
	フランス語中級B	2後		1							2
	フランス語上級A	3前		1							1
	フランス語上級B	3後		1							1
中国語	中国語初級基礎A	1前		1							1
	中国語初級基礎B	1後		1							1
	中国語初級演習A	1前		1							1
	中国語初級演習B	1後		1							1
	中国語中級A	2前		1							2
	中国語中級B	2後		1							2
小計(36科目)			6	30	0	0	0	0	0	0	46
工学系 工学系 工学系 工学系 工学系 工学系 工学系 工学系 工学系 工学系	工学系基礎	1前		1		1					5
	キャリア教育基礎	1前		1							2
	KITスタンダード	1後		2		1					5
	学習・キャリア戦略論	1後		2							1
	国際理解	1前		1							2
	人権教育	1前		2							1
	地球環境論	1前		2							1
	環境マネジメント	3前		1							2
	環境問題と持続可能な社会	1前		2							1
	環境と法	1後		2							1
環境論	1後		2							1	
情報セキュリティと情報倫理	1後		2							3	
生命倫理と環境倫理	2前		2							1	
テクノロジー論	2後		2							1	
現代科学と倫理	1前		2							1	
ものづくり ものづくり ものづくり ものづくり ものづくり ものづくり	ものづくりと生命物質科学	1後		2							13
	ものづくりと設計工学	1前		2							11
	伝統産業概論 I	1前		2							1
	伝統産業概論 II	1後		2							8
	産学連携ものづくり実践	3前		4							1
	ものづくり加工実習	2後		2							3
実践ユニバーサルデザイン	1前		2							1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
リ ー ダ ー シ ッ プ 基 礎 I - 地 域 連 携 プ ロ ジ ェ ク ト	リーダーシップ基礎 I- 地域連携プロジェクト	1前	2					1		10	
	リーダーシップ基礎 II	1後	2							1	
	知的財産経営論	1前	2							2	
	ベンチャー企業経営学	3後	2							1	
	リーダーシップ実践 I	1前	2							2	
	リーダーシップ実践 II	1前	2							2	
	国際連携プロジェクト	4前	1							4	
	京のサステナブルデザイン	2前	2							4	
	文化財学	2前	2		2						
	京の文化行政	2前	2							2	
	京の伝統工芸-技と美	3前	2		1	1				7	
	京の伝統工芸-知と美	4前	2							2	
	京の意匠	1後	2		1						
	京のまち	3後	2		2	2	0	1			
	京の知恵 伝統産業の 先進的ものづくり	2後	2							1	
	京の産業技術史	1前	2							1	
	京の生活文化史	1前-後	2							1	
	京都の文学 I	1前	2							1	
	京都の文学 II	1後	2							1	
京都の歴史 I	1前	2							3		
京都の歴史 II	1後	2							3		
現代京都論	1前	2							1		
京都の農林業	1後	2							8		
京都の自然と森林	1前	2							4		
宗教と文化	1後	2							1		
英語で京都	3後	2							1		
近代京都と三大学	1前	2		1					4		
京野菜を栽培する(リハ ラルアーツ・セミナー)	1前	1							2		
京都の経済	1後	2							1		
京都学・歴史館ゼミ(リハ ラルアーツ・セミナー)	2後	2							1		
小計 (52科目)		0	100	0	5	3	0	1	0	97	
人 間 教 養 科 目 - 基 礎 的 学 科 目	法学	1前	2							1	
	憲法	1後	2							1	
	経済学	2前	2							1	
	心理学	1前	2							1	
	現代教育論	1前	2							1	
	政治学	1後	2							1	
	経済学入門	1後	2							1	
	国際政治	1前	2							1	
	生活と経済	1後	2							1	
	社会学 I	1前	2							1	
	社会学 II	1後	2							1	
	現代社会と心	1後	2							1	
	現代社会とジェンダー	1前	2							1	
	食環境をめぐる国際社 会と日本	1前	2							2	
	人文地理学 I	1前	2							1	
	人文地理学 II	1後	2							1	
	医学	1後	2							1	
	発達心理学	1前	2							1	
	社会科学の学び方(リハ ラルアーツ・セミナー)	1後	2							1	
	現代社会と映画製作(リ ハラルアーツ・セミナー)	1前	1							1	
	世界はいま(リハラルア ーツ・セミナー)	1後	1							1	
	現代イスラーム世界の 文化と社会(リハラルア ーツ・セミナー)	1前	1							1	
経営哲学(リハラルアーツ ・セミナー)	2後	2							1		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
人文化	哲学	1後		2								1
	歴史学	1後		2								2
	舞台芸術論	3前		2								1
	日本近代精神史	1前		2								1
	美と芸術	1前		2			1					
	比較宗教学	1前		2								1
	西洋文学論	1前		2								1
	日本近現代文学	1後		2								1
	科学と思想(リハラルアーツ・ゼミナル)	1後		2								1
	東西文化交流史	1後		2								1
	西洋文化論	1後		2								1
	日本史	1前		2								1
	フランス語圏の文化とジャポニスム	2前		2								1
	アジアの歴史と文化	1前		2								1
	ヨーロッパの歴史と文化	1後		2								3
	映画で学ぶ英語と文化	3後		2								1
	映画で学ぶドイツ語と文化	3前		2								1
	日本文学Ⅰ	1前		2								1
	日本文学Ⅱ	1後		2								1
	ラテン語	1後		2								1
	文芸創作論	1後		2								1
	現代社会に学ぶ問う力・書く力(リハラルアーツ・ゼミナル)	1前		2								1
	感性の実践哲学(リハラルアーツ・ゼミナル)	1前		1								1
	人と自然と数学α	1前		2								1
	人と自然と数学β	1後		2								1
	人と自然と物理学	1後		2								2
	化学概論Ⅰ	1前		2								1
	化学概論Ⅱ	1後		2								1
	生物学概論Ⅰ	1前		2								1
	生物学概論Ⅱ	1後		2								1
	地球の科学	1後		2								1
	エネルギー科学	1前		2								1
	科学史	1後		2								1
	物理学Ⅰ	1前		2								1
食と健康の科学	1前		2								4	
生命科学講話	1前		2								15	
時間生物学特論	3前		2								1	
生物学的人間学	1前		2								1	
医学概論	2後		2								1	
意外と知らない植物の世界	1後		2		1		1				3	
レーザーで見る、創る、楽しむ(リハラルアーツ・ゼミナル)	1前		2								1	
京都の防災と府民	1後		2								1	
製品の機能から科学を学ぶ(リハラルアーツ・ゼミナル)	1後		2								1	
小計(66科目)			0	128	0	1	1	1	0	0	79	
体の科学	キャンパスヘルス概論	1前		2								1
	健康体力科学	2後		2								2
	生涯スポーツ	2前・後		2								3
	生体行動科学	2前		2								2
	スポーツ科学Ⅰ	1前		2								6
	スポーツ科学Ⅱ	1後		2								3
	小計(6科目)			0	12	0	0	0	0	0	0	10
専門導入科目	ソーシャルインタラクションデザイン概論	1前		2		21	13	5	11	2		
	デザイン・建築基礎実習	1前		2		21	13	5	11	2		
	地域課題導入セミナー	1前		1								3
	小計(3科目)			5	0	0	21	13	5	11	2	3
専任教員科目	基礎解析Ⅰ	1前		2								2
	線形代数学Ⅰ	1前		2								2
	数学演習Ⅰ	1前		2								2
	基礎解析Ⅱ	1後		2								1
	線形代数学Ⅱ	1後		2								1
	数学演習Ⅱ	1後		2								1
	統計数理	2前		2								1
	物理学Ⅰ	1前		2								1
	物理学Ⅱ	1後		2								1
	力学	1後		2								1
	統計熱力学	2前		2								1
量子力学	2後		2								1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
化学・生物	化学Ⅰ	1前		2								1
	生物学Ⅰ	1前		2								4
	化学Ⅱ	1後		2								1
	生物学Ⅱ	1後		2								4
	新先端ファイロ科学	1後		2								12
	図学	2後		2								1
	インターンシップA	3前		1		1						
	インターンシップB	3前		2		1						
	生体機能論	3前		2								1
	スポーツバイオメカニクス	4前		2								1
環境化学	3後		2								2	
情報リテラシー	情報リテラシー概論	1前		2					1			
	絵画実習	1前		1								2
経済学	アントレプレナーシップ概論	2前			2							1
	知的財産概論Ⅰ	2前			2							1
	特許法・実用新案法Ⅰ	2前			2							1
	民法概論Ⅰ	2前			2							1
	知的財産概論Ⅱ	2後			2							1
	特許法・実用新案法Ⅱ	2後			2							1
	民法概論Ⅱ	2後			2							1
	知的財産演習	3後			1							1
	繊維科学概論	3後		1								1
	複合材料科学	3後		2								1
先端複合材料科学	3後		2								1	
複合材料基礎実験	3後		1								1	
複合材料ものづくり実験	4前		1								1	
小計(33科目+5科目(地域創生))			0	55	15	1	0	0	1	0		33
デザイン	デザイン・建築表現演習	1後		3		21	13	5	11	2		
	ソーシャルインタラクシオンデザイン演習	1後		3		11	8	2	4	2		
	建築設計実習Ⅰ	2前		4		10	6	2	7			1
	建築設計実習Ⅱ	2後		4		10	6	2	7			3
	建築設計実習Ⅲ	3前		4		10	6	2	7			3
	建築設計実習Ⅳ	3後		4		10	6	2	7			1
	プロジェクトデザインⅠ	2前		4		11	8	2	4	2		
	プロジェクトデザインⅡ	2後		4		11	8	2	4	2		
	プロジェクトデザインⅢ	3前		4		11	8	2	4	2		
	プロジェクトデザインⅣ	3後		4		11	8	2	4	2		
建築学	建築構造力学Ⅰ	1後		2		1	0	1	1			1
	建築構造力学Ⅱ	2前		2		1	0	1	1			1
	建築構造力学Ⅲ	2後		2		1	0	1	1			1
	建築計画Ⅰ	2前		2		2	1					
	建築計画Ⅱ	2後		2		2	1	0				
	環境調整Ⅰ	2前		2			1					
	環境調整Ⅱ	2後		2			1					
	建築構造設計学Ⅰ	2後		2		1	0	1				1
	建築構造設計学Ⅱ	3前		2		1	0	1	1			
	都市史Ⅰ	2後		2			1	0				
	都市史Ⅱ	3前		2		1						
	都市史Ⅲ	3後		2			1	1				
	建築構造	2前		2		2	1	1	1			
	西洋建築史	2前		2		1						
	日本建築史	2後		2		1	1					
	東洋建築史	3前		2			1					
	近代建築史	3前		2		2				1		
	造形材料	2後		2				1	1			
	建築職能論	2後		2		2	1			1		0
	環境デザイン論	3前		2		1		1		1		
景観論	3前		2		1							
建築設備	3前		2								1	
住環境計画	3後		2		1							
都市・建築遺産論	3後		2		1			1				
空気調整設備	3後		2								1	
建築生産	3後		2								1	
建築法規	3後		2								1	



科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
デザイン	製品技術論	2前		2			1						
	視覚デザイン論	2前		2			1						
	コンピュータショナルデザイン	2前		2			1						
	ファンリティ計画論	2前		2		1			1				
	デザイン史	2前		2			1						
	映像デザイン論	2後		2		1	0						
	工業デザイン論	2後		2		1							
	室内意匠計画	3前		2		1							
	視覚形成論	3後		2		1							
	デザイン方法論	3後		2		1							
芸術	日本美術史	1前		2				1					
	西洋美術史	1後		2			1						
	感性論	2前		2			1						
	現代美術館学	2後		2		2			1				
	写真・映画論	3前		2			1		1				
	庭園美学論	3前		2							1		
	博物館概論	3前		2				1					
	現代芸術論	3後		2			1						
経営	企業経営学概論	1後		2		1	1						
	マーケティング論	2前		2							1		
	プロジェクトマネジメント	2前		2		1							
	会計・財務基礎	2後		2		1							
	経営戦略論	3前		2		0	1				1		
	事業企画論	3前		2							1		
	ファンリティ経営論	3前		2							1		
	デザインマネジメント	3後		2			1						
	市場参入論	3後		2			1						
	工学	資源環境論	1前		2								1
エンジニアリング概説		1後		2		3		1	1			1	
ものづくりの統計学		1後		2			1					1	
生産工学		2前		2								1	
材料工学		2後		2								1	
人間情報科学		3前		2		1							
感覚工学		3後		2		1		1					
デザイン経営工学事例研究		3後		2								4	
建築		CAD/CG実習	2前		1		1			1			
		デザインプラクティスⅠ	2前		1		1	1		2			2
	デザインプラクティスⅡ	2後		1		2			1	1			
	デザインプラクティスⅢ	3前		1								1	
	デザインプラクティスⅣ	3後		1		1	1		1				
	情報処理演習	2後		2					1				
	建築環境工学演習	3前		1			1						
	建築構造材料実験	3前		1		1	0	1	1				
	建築測量演習	3前		1		1	4	0	4				
	建築計画演習	3後		2		2	1	0					
	伝統建築演習	3後		2		1	1		2				
	建築設計製図Ⅰ	2後		2		10	6	2	7			1	
	建築設計製図Ⅱ	3前		2		10	6	2	7			1	
	建築設計製図Ⅲ	3後		1		10	6	2	7			1	
	デザイン・建築学演習	4前		6		21	13	5	11		2		
卒業研究	4通	8			21	13	5	11		2			
地域創生	地域創生課題セミナーⅠ	3後	2									2	
	地域創生課題セミナーⅡ	4前	2									2	
	ものづくりインターンシップⅠ	3後	4									2	
	ものづくりインターンシップⅡ	4前	4									2	
	卒業プロジェクト	4通	8			21	13	5	11		2		
小計 (88科目+5科目(地域創生))		22	193	0	21	13	5	11	2	29			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
教職に関する科目	現代教師論	1後			2							1
	教育原論	1前			2							1
	日本教育史	1前			2							1
	教育心理学	1後			2							1
	教育社会学	1前			2							1
	教育課程論	1前			2							1
	工業教育法	2前・後			4							1
	道德教育の理論と方法	1後			2							1
	特別活動論	1前			2							1
	教育方法論	1後			2							1
	視聴覚教育概説	1後			2							1
	生徒指導	1前			2							1
	教育相談・進路指導論	1前			2							1
	教職実践演習(中・高)	4後			2							4
	教育実習 I	4前			4							1
	教育実習 II	4前			2							1
	教育実習 III	4前			1							1
	職業指導 I	1前			2							1
職業指導 II	1後			2							1	
小計 (18科目)			0	0	39	0	0	0	0	0	0	12
学芸員資格取得のための授業科目	博物館概論	3前			2			1				
	博物館学 I	3前			2	1	1					
	博物館学 II	3後			2	1	1					
	文化財学	2前			2	2						
	文化財保存科学	3前			2							1
	教育学概論	3前			2							1
	博物館教育論	3後			1							1
	生涯学習概論	3前			2							1
	博物館情報・メディア論	3後			2		1					1
	博物館実習	4通			3	2	1					
	デザインマネジメント	3後			2		1					
	京の産業技術史	1後			2							1
小計 (12科目)			0	0	24	3	4	1	0	0	0	5
合計 (325科目+11科目 (地域創生))			33	518	78	21	13	5	11	2		284

卒業要件及び履修方法

一般プログラム(デザイン)

英語必修6単位を含み言語教育科目から12単位以上、工芸科学教養科目の選択科目から10単位以上と基本教養科目の選択科目から6単位以上とを合わせて人間教養科目22単位以上、専門導入科目4単位、専門基礎科目の選択科目から6単位以上、課程専門科目の卒業研究8単位、選択科目から26単位以上(マネジメント論科目及びエンジニアリング論科目から、それぞれ2単位以上修得した上で合計8単位以上修得すること)を修得し、専門教育科目90単位以上及び合計134単位以上修得すること。

(履修科目の登録の上限:50単位(年間))

地域創生Tech Program(デザイン)

英語必修6単位を含み言語教育科目から12単位以上、工芸科学教養科目の選択科目から10単位以上と基本教養科目の選択科目から6単位以上とを合わせて人間教養科目22単位以上、専門導入科目5単位、専門基礎科目の選択科目から6単位以上、課程専門科目の必修科目6単位と卒業プロジェクト(8単位)の14単位、選択科目から26単位以上(マネジメント論科目及びエンジニアリング論科目から、それぞれ2単位以上修得した上で合計8単位以上修得すること)を修得し、専門教育科目90単位以上及び合計134単位以上修得すること。

(履修科目の登録の上限:50単位(年間))

一般プログラム(建築)

英語必修6単位を含み言語教育科目から12単位以上、工芸科学教養科目の選択科目から10単位以上と基本教養科目の選択科目から6単位以上とを合わせて人間教養科目22単位以上、専門導入科目4単位、専門基礎科目の選択科目から4単位以上、課程専門科目の卒業研究の8単位、選択科目から18単位以上を修得し、専門教育科目90単位以上及び合計134単位以上修得すること。

(履修科目の登録の上限:50単位(年間))

地域創生Tech Program(建築)

英語必修6単位を含み言語教育科目から12単位以上、工芸科学教養科目の選択科目から10単位以上と基本教養科目の選択科目から6単位以上とを合わせて人間教養科目22単位以上、専門導入科目5単位、専門基礎科目の選択科目から4単位以上、課程専門科目の必修科目6単位と卒業プロジェクト(8単位)の14単位、選択科目から18単位以上を修得し、専門教育科目90単位以上及び合計134単位以上修得すること。

(履修科目の登録の上限:50単位(年間))

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 本授業科目表は、開設年度から提出年度までの間において実際に実施された授業科目に関する情報として記入してください。
  - ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
  - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
  - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼担教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字としてください。
  - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
  - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
  - ・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除してください。  
(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【平成30年度】

- ・教育プログラムの見直しに伴い、「Career English Basic」の教員配置を「兼任・兼任8」から「兼任・兼任7」に変更。
- ・担当教員の見直しにより、「Academic English」の教員配置を「兼任・兼任5」から「兼任・兼任6」に変更。
- ・担当教員の見直しにより、「Career English Intermediate」の教員配置を「兼任・兼任7」から「兼任・兼任8」に変更。
- ・教育プログラムの見直しに伴い、「Career English Advanced」の教員配置を「兼任・兼任6」から「兼任・兼任5」に変更。
- ・教育プログラムの見直しに伴い、「Active English CLIL」の教員配置を「兼任・兼任4」から「兼任・兼任2」に変更。
- ・担当教員の見直しにより、「Active English Listening & Speaking I」の教員配置を「兼任・兼任6」から「兼任・兼任7」に変更。
- ・担当教員の見直しにより、「Active English Reading I」の教員配置を「兼任・兼任4」から「兼任・兼任5」に変更。
- ・教育プログラムの見直しに伴い、「Active English Reading II」の教員配置を「兼任・兼任8」から「兼任・兼任3」に変更。
- ・教育プログラムの見直しに伴い、「Active English Writing II」の教員配置を「兼任・兼任4」から「兼任・兼任1」に変更。
- ・教育プログラムの見直しに伴い、「中国語初級基礎A」の教員配置を「兼任・兼任2」から「兼任・兼任1」に変更。
- ・教育プログラムの見直しに伴い、「中国語初級基礎B」の教員配置を「兼任・兼任2」から「兼任・兼任1」に変更。
- ・学域改組に伴い、「工芸科学基礎」の教員配置を「教授1、兼任・兼任3」から「教授1、兼任・兼任5」に変更。
- ・担当教員の見直しにより、「国際理解」の教員配置を「兼任・兼任1」から「兼任・兼任2」に変更。
- ・教育プログラムの見直しに伴い、「ものづくりと生命物質科学」の教員配置を「兼任・兼任14」から「兼任・兼任13」に変更。
- ・教育プログラムの見直しに伴い、「ものづくりと設計工学」の教員配置を「兼任・兼任10」から「兼任・兼任11」に変更。
- ・教育プログラムの見直しに伴い、「リーダーシップ基礎Ⅱ」の教員配置を「兼任・兼任2」から「兼任・兼任1」に変更。
- ・教育プログラムの見直しに伴い、「リーダーシップ実践Ⅰ」の教員配置を「兼任・兼任1」から「兼任・兼任2」に変更。
- ・担当教員の見直しにより、「国際連携プロジェクト」の教員配置を「兼任・兼任2」から「兼任・兼任4」に変更。
- ・三大学教養教育共同化科目のため関係大学と協議により、「京の産業技術史」の開講時期を「1後」から「1前」に変更。
- ・担当教員の見直しにより、「京のまち」の教員配置を「教授3、准教授1、講師1」から「教授2、准教授2、助教1」に変更。
- ・担当教員の見直しにより、「法学」の教員配置を「兼任・兼任2」から「兼任・兼任1」に変更。
- ・担当教員の見直しにより、「憲法」の教員配置を「兼任・兼任2」から「兼任・兼任1」に変更。
- ・教育プログラムの見直しに伴い、「現代社会とジェンダー」の教員配置を「兼任・兼任6」から「兼任・兼任1」に変更。
- ・教育プログラムの見直しに伴い、「人文地理学Ⅰ」の教員配置を「兼任・兼任2」から「兼任・兼任1」に変更。
- ・三大学教養教育共同化科目のため関係大学と協議により、「医史学」の開講時期を「1前」から「1後」に変更。
- ・三大学教養教育共同化科目のため関係大学と協議により、「アメリカと中国はいま（リベラルアーツ・ゼミナール）」を「世界はいま（リベラルアーツ・ゼミナール）」に科目名変更。
- ・三大学教養教育共同化科目のため関係大学と協議により、「経営哲学（リベラルアーツ・ゼミナール）」の開講時期を「2前」から「2後」に変更。
- ・三大学教養教育共同化科目のため関係大学と協議により、「日本近現代文学」の開講時期を「1前」から「1後」に変更。
- ・三大学教養教育共同化科目のため関係大学と協議により、「現代社会に学ぶ問う力・書く力（リベラルアーツゼミナール）」の開講時期を「1前・後」から「1前」に変更。
- ・担当教員の見直しにより、「人と自然と物理学」の教員配置を「兼任・兼任2」から「兼任・兼任3」に変更。
- ・教育プログラムの充実のため、「レーザーで測る、創る、楽しむ（リベラルアーツ・ゼミナール）」を新設。
- ・教育プログラムの充実のため、「京都の防災と府民」を新設。
- ・教育プログラムの見直しに伴い、「生涯スポーツ」の教員配置を「兼任・兼任5」から「兼任・兼任3」に変更。
- ・担当教員を次年度以降に採用予定のため、「ソーシャルインタラクションデザイン概論」「デザイン・建築基礎実習」「デザイン・建築表現演習」の教員配置を「教授22、准教授16、講師6、助教11、助手2」から「教授21、准教授13、講師5、助教11、助手2」に変更。
- ・担当教員の昇任等により、「ソーシャルインタラクションデザイン演習」「プロジェクトデザインⅠ」「プロジェクトデザインⅡ」「プロジェクトデザインⅢ」「プロジェクトデザインⅣ」の教員配置を「教授11、准教授9、講師2、助教4、助手2」から「教授11、准教授8、講師2、助教4、助手2」に変更。
- ・担当教員の見直しにより、「基礎解析Ⅰ」の教員配置を「兼任・兼任1」から「兼任・兼任2」に変更。
- ・担当教員の見直しにより、「線形代数Ⅰ」の教員配置を「兼任・兼任1」から「兼任・兼任2」に変更。
- ・担当教員の見直しにより、「数学演習Ⅰ」の教員配置を「兼任・兼任1」から「兼任・兼任2」に変更。
- ・教育プログラムの見直しに伴い、「基礎力学」を「物理学Ⅰ」、「基礎電磁気学」を「物理学Ⅱ」に名称変更。
- ・担当教員の見直しにより、「環境化学」の教員配置を「兼任・兼任1」から「兼任・兼任2」に変更。
- ・教育プログラムの見直しに伴い、「建築設計実習Ⅰ」の教員配置を「教授5、准教授3、講師1、助教5、兼任・兼任2」から「教授10、准教授6、講師2、助教7、兼任・兼任1」に変更。
- ・教育プログラムの見直しに伴い、「建築設計実習Ⅱ」の教員配置を「教授9、准教授4、講師2、助教5、兼任・兼任2」から「教授10、准教授6、講師2、助教7、兼任・兼任3」に変更。
- ・教育プログラムの見直しに伴い、「建築設計実習Ⅲ」の教員配置を「教授8、准教授3、講師2、助教4、兼任・兼任2」から「教授10、准教授6、講師2、助教7、兼任・兼任3」に変更。
- ・教育プログラムの見直し等に伴い、「建築設計実習Ⅳ」の教員配置を「教授11、准教授7、講師4、助教7」から「教授10、准教授6、講師2、助教7、兼任・兼任1」に変更。
- ・担当教員の昇任及び担当教員の見直しにより、「建築構造力学Ⅰ」の教員配置を「教授1・准教授1・講師1」から「教授1、講師1、助教1、兼任・兼任1」に変更。
- ・担当教員の昇任及び担当教員の見直しにより、「建築構造力学Ⅱ」「建築構造力学Ⅲ」の教員配置を「教授1・准教授1」から「教授1、講師1、助教1、兼任・兼任1」に変更。
- ・担当教員の見直しにより、「建築計画Ⅰ」の教員配置を「教授1、准教授1」から「教授2、准教授1」に変更。
- ・担当教員の昇任及び担当教員の見直しにより、「建築計画Ⅱ」の教員配置を「准教授1、講師1」から「教授2、准教授1」に変更。
- ・担当教員の昇任及び担当教員の見直しにより、「建築構造設計Ⅰ」の教員配置を「教授1、准教授1」から「教授1、講師1、兼任・兼任1」に変更。
- ・担当教員の昇任及び担当教員の見直しにより、「建築構造設計Ⅱ」の教員配置を「准教授1、講師1」から「教授1、講師1、助教1」に変更。
- ・担当教員の昇任及び担当教員の見直しにより、「建築構造」の教員配置を「教授3、准教授2、講師1」から「教授2、准教授1、講師1、助教1」に変更。
- ・担当教員の見直しにより、「近代建築史」の教員配置に「助教1」を追加。
- ・担当教員の見直しにより、「建築職能論」の教員配置を「教授3、准教授1、兼任・兼任1」から「教授2、准教授1、助教1」に変更。
- ・担当教員の見直しにより、「環境デザイン論」の教員配置を「教授1、講師2、助教1」から「教授1、講師1、助教1」に変更。
- ・担当教員の見直しにより、「ファシリティ計画論」の教員配置に「助教1」を追加。
- ・学生の教育効果を考慮し、「デザイン史」の開講時期を「2前」から「2後」に変更。
- ・担当教員の昇任により、「映像デザイン論」の教員配置を「准教授1」から「教授1」に変更。
- ・担当教員の見直しにより、「経営戦略論」の教員配置を「准教授1」から「兼任・兼任1」を追加。
- ・担当教員の見直しにより、「エンジニアリング概説」の教員配置に「講師1」を追加。
- ・担当教員の昇任及び担当教員の見直しにより、「建築構造材料実験」の教員配置を「教授1、准教授1、講師1、助教1」から「教授1、講師1、助教1」に変更。
- ・担当教員の昇任により、「建築測量演習」の教員配置を「准教授4、講師1、助教4」から「教授1、准教授4、助教4」に変更。
- ・担当教員の昇任及び担当教員の就任辞退による見直しにより、「建築計画演習」の教員配置を「教授1、准教授2、講師1」から「教授2、准教授1」に変更。
- ・担当教員の見直しにより、「伝統建築演習」の教員配置に「助教1」を追加。
- ・設置計画書の記載漏れを修正し、「建築設計製図Ⅰ」「建築設計製図Ⅱ」「建築設計製図Ⅲ」の教員配置を「教授10、准教授6、講師2、助教7 兼任・兼任1」とする。

・担当教員を次年度以降に採用予定のため、「デザイン・建築学演習」「卒業研究」「卒業プロジェクト」の教員配置を「教授22、准教授16、講師6、助教11」から「教授21、准教授13、講師5、助教11、助手2」に変更。

- ・教職課程認定申請において文部科学省と相談のうえ、「日本教育史」を「教育原論」に統合。
- ・教職課程認定申請において指摘を受けたため、「教育相談論」を「教育相談・進路指導論」に科目名変更。
- ・担当教員の見直しにより、「博物館学Ⅰ」の教員配置を「教授2」から「教授1、准教授1」に変更。
- ・担当教員の見直しにより、「博物館学Ⅱ」の教員配置を「准教授2」から「教授1、准教授1」に変更。

### 【令和元年度】

- ・授業内容、分担の見直しにより、「Career English Advanced」の教員配置を「兼5」から「兼6」に変更。
- ・授業内容、分担の見直しにより、「Active English ReadingⅠ」の教員配置を「兼5」から「兼3」に変更。
- ・授業内容、分担の見直しにより、「Active English ReadingⅡ」の教員配置を「兼3」から「兼2」に変更。
- ・授業内容、分担の見直しにより、「KITスタンダード」の教員配置を「教授1、兼5」から「兼10」に変更。
- ・教育プログラムの見直しにより、「エネルギー科学」の科目区分を「人と自然」から「科学技術と環境・倫理」に変更。
- ・授業内容、分担の見直しにより、「ものづくりと設計工学」の教員配置を「兼11」から「兼12」に変更。
- ・授業内容、分担の見直しにより、「伝統産業概論Ⅰ」の教員配置を「兼1」から「兼3」に変更。
- ・授業内容、分担の見直しにより、「伝統産業概論Ⅱ」の教員配置を「兼8」から「兼3」に変更。
- ・授業内容、分担の見直しにより、「実践ユニバーサルデザイン」の教員配置を「兼1」から「兼2」に変更。
- ・授業内容、分担の見直しにより、「リーダーシップ基礎Ⅰー地域連携プロジェクト」の教員配置を「助教1、兼10」から「准教授1、助教1、兼8」に変更。
- ・授業内容、分担の見直しにより、「リーダーシップ実践Ⅰ」の教員配置を「兼2」から「兼1」に変更。
- ・担当教員の採用により、「リーダーシップ実践Ⅱ」の教員配置を「兼2」から「准教授1、兼1」に変更。
- ・「国際連携プロジェクトⅡ」を新設したことにより、従来の「国際連携プロジェクト」を「国際連携プロジェクトⅠ」に名称変更。
- ・三大学教養教育共同化科目のため、提供元の事情により、「京都学・歴彩館ゼミ（リベラルアーツ・ゼミナール）」の科目名称を「資料で親しむ京都学（リベラルアーツ・ゼミナール）」に変更。
- ・三大学教養教育共同化科目のため、提供元の事情により、「食環境をめぐる国際社会と日本」の科目名称を「食環境をめぐる国際社会と日本α」に変更、開講時期を「1前」から「1後」に変更。
- ・授業内容、分担の見直しにより、「意外と知らない植物の世界」の教員配置を「教授1、講師1、兼3」から「講師1、助教1、兼3」に変更。
- ・授業内容、分担の見直しにより、「京都の防災と府民」の教員配置を「兼1」から「教授1、准教授1、兼1」に変更。
- ・担当教員の退職、昇任、新規採用による授業内容、分担の見直しにより、「ソーシャルインタラクティブデザイン概論」の教員配置を「教授21、准教授13、講師5、助教11、助手2」から「教授20、准教授18、講師2、助教11、助手2」に変更。
- ・担当教員の退職、昇任、新規採用による授業内容、分担の見直しにより、「デザイン・建築基礎実習」の教員配置を「教授21、准教授13、講師5、助教11、助手2」から「教授20、准教授18、講師2、助教11、助手2」に変更。
- ・地域創生Tech Programコースに対する福知山キャンパスでの開講科目を充実させるため、「先端情報工学概論」を新設。
- ・福知山キャンパスにおいて開講する科目であったが、幅広く一般プログラムの学生にも受講可能とするため、「知的財産演習」の開講時期を「3後」から「3前」に変更し、松ヶ崎キャンパスにおいて開講。
- ・担当教員の退職、昇任、新規採用による授業内容、分担の見直しにより、「デザイン・建築表現演習」の教員配置を「教授21、准教授13、講師5、助教11、助手2」から「教授20、准教授18、講師2、助教11、助手2」に変更。
- ・担当教員の退職、昇任、新規採用による授業内容、分担の見直しにより、「ソーシャルインタラクティブデザイン演習」の教員配置を「教授11、准教授8、講師2、助教4、助手2」から「教授10、准教授11、講師1、助教4、助手2」に変更。
- ・担当教員の退職、昇任、新規採用による授業内容、分担の見直しにより、「建築設計実習Ⅰ」の教員配置を「教授10、准教授6、講師2、助教7、兼1」から「教授10、准教授7、講師1、助教7」に変更。
- ・担当教員の退職、昇任、新規採用による授業内容、分担の見直しにより、「建築設計実習Ⅱ」の教員配置を「教授10、准教授6、講師2、助教7、兼3」から「教授10、准教授7、講師1、助教7、兼2」に変更。
- ・担当教員の退職、昇任、新規採用による授業内容、分担の見直しにより、「建築設計実習Ⅲ」の教員配置を「教授10、准教授6、講師2、助教7、兼3」から「教授10、准教授7、講師1、助教7、兼2」に変更。
- ・担当教員の退職、昇任、新規採用による授業内容、分担の見直しにより、「建築設計実習Ⅳ」の教員配置を「教授10、准教授6、講師2、助教7、兼1」から「教授10、准教授7、講師1、助教7」に変更。
- ・担当教員の退職、昇任、新規採用による授業内容、分担の見直しにより、「プロジェクトデザインⅠ」の教員配置を「教授11、准教授8、講師2、助教4、助手2」から「教授10、准教授11、講師1、助教4、助手2」に変更。
- ・担当教員の退職、昇任、新規採用による授業内容、分担の見直しにより、「プロジェクトデザインⅡ」の教員配置を「教授11、准教授8、講師2、助教4、助手2」から「教授10、准教授11、講師1、助教4、助手2」に変更。
- ・担当教員の退職、昇任、新規採用による授業内容、分担の見直しにより、「プロジェクトデザインⅢ」の教員配置を「教授11、准教授8、講師2、助教4、助手2」から「教授10、准教授11、講師1、助教4、助手2」に変更。
- ・担当教員の退職、昇任、新規採用による授業内容、分担の見直しにより、「プロジェクトデザインⅣ」の教員配置を「教授11、准教授8、講師2、助教4、助手2」から「教授10、准教授11、講師1、助教4、助手2」に変更。
- ・担当教員の昇任、採用による授業内容、分担の見直しにより、「建築構造力学Ⅰ」の教員配置を「教授1、講師1、助教1、兼1」から「教授2、准教授1、助教1」に変更。
- ・担当教員の昇任、採用による授業内容、分担の見直しにより、「建築構造力学Ⅱ」の教員配置を「教授1、講師1、助教1、兼1」から「教授2、准教授1、助教1、兼1」に変更。
- ・担当教員の昇任、採用により、「建築構造力学Ⅲ」の教員配置を「教授1、講師1、助教1、兼1」から「教授2、准教授1、助教1、兼1」に変更。
- ・担当教員の退職による授業内容、分担の見直しにより、「建築計画Ⅰ」の教員配置を「教授2、准教授1」から「教授1、准教授1」に変更。
- ・担当教員の退職による授業内容、分担の見直しにより、「建築計画Ⅱ」の教員配置を「教授2、准教授1」から「教授1、准教授1」に変更。
- ・担当教員の昇任、採用による授業内容、分担の見直しにより、「建築構造設計学Ⅰ」の教員配置を「教授1、講師1、兼1」から「教授2、准教授1、助教1、兼1」に変更。
- ・担当教員の昇任、採用による授業内容、分担の見直しにより、「建築構造設計学Ⅱ」の教員配置を「教授1、講師1、助教1」から「教授2、准教授1、助教1」に変更。
- ・担当教員の昇任、採用による授業内容、分担の見直しにより、「建築構造」の教員配置を「教授2、准教授1、講師1、助教1」から「教授3、准教授2、助教1」に変更。
- ・担当教員の昇任により、「造形材料」の教員配置を「講師1、助教1」から「准教授1、助教1」に変更。
- ・担当教員の採用により、「環境デザイン論」の教員配置を「教授1、講師1、助教1」から「教授1、准教授1、講師1、助教1」に変更。

助教1」に変更。

- ・授業内容、分担の見直しにより、「住環境計画」の教員配置を「教授1」から「教授1、兼1」に変更。
- ・授業内容、分担の見直しにより、「製品技術論」の教員配置を「准教授1」から「准教授1、助教1」に変更。
- ・担当教員の退職、昇任による授業内容、分担の見直しにより、「エンジニアリング概説」の教員配置を「教授3、講師1、助教1」から「教授2、准教授1、助教1」に変更。
- ・担当教員の昇任により、「感覚工学」の教員配置を「教授1、講師1」から「教授1、准教授1」に変更。
- ・授業内容、分担の見直しにより、「デザインプラクティスⅠ」の教員配置を「教授1、准教授1、助教2、兼2」から「教授2、准教授1、助教2、兼2」に変更。
- ・授業内容、分担の見直しにより、「デザインプラクティスⅡ」の教員配置を「教授2、助教1、助手1」から「教授2、助教2、兼3」に変更。
- ・授業内容、分担の見直しにより、「デザインプラクティスⅢ」の教員配置を「兼1」から「教授1、助教1、兼3」に変更。
- ・担当教員の昇任、採用により、「建築構造材料実験」の教員配置を「教授1、講師1、助教1」から「教授2、准教授1、助教1」に変更。
- ・担当教員の退職による授業内容、分担の見直しにより、「建築測量演習」の教員配置を「教授1、准教授4、助教4」から「教授1、准教授3、助教5」に変更。
- ・担当教員の退職による授業内容、分担の見直しにより、「建築計画演習」の教員配置を「教授2、准教授1」から「教授1、准教授3」に変更。
- ・担当教員の退職、昇任、新規採用による授業内容、分担の見直しにより、「建築設計製図Ⅰ」の教員配置を「教授10、准教授6、講師2、助教7、兼1」から「教授10、准教授7、講師1、助教7」に変更。
- ・担当教員の退職、昇任、新規採用による授業内容、分担の見直しにより、「建築設計製図Ⅱ」の教員配置を「教授10、准教授6、講師2、助教7、兼1」から「教授10、准教授7、講師1、助教7」に変更。
- ・担当教員の退職、昇任、新規採用による授業内容、分担の見直しにより、「建築設計製図Ⅲ」の教員配置を「教授10、准教授6、講師2、助教7、兼1」から「教授10、准教授7、講師1、助教7」に変更。
- ・担当教員の退職、昇任、新規採用による授業内容、分担の見直しにより、「デザイン・建築学演習」の教員配置を「教授21、准教授13、講師5、助教11、助手2」から「教授20、准教授18、講師2、助教11、助手2」に変更。
- ・担当教員の退職、昇任、新規採用による授業内容、分担の見直しにより、「卒業研究」の教員配置を「教授21、准教授13、講師5、助教11、助手2」から「教授20、准教授18、講師2、助教11、助手2」に変更。
- ・授業内容、分担の見直しにより、「地域創生課題セミナーⅠ」の教員配置を「兼2」から「兼3」に変更。
- ・「ものづくりインターシップⅡ」は海外実習2週間及び国内実習2週間というプログラムであるが、海外実習2週間のみというプログラムを提供するため、「ものづくりインターシップⅢ」(海外実習2週間のみ)を新設。
- ・担当教員の退職、昇任、新規採用による授業内容、分担の見直しにより、「卒業プロジェクト」の教員配置を「教授21、准教授13、講師5、助教11、助手2」から「教授20、准教授18、講師2、助教11、助手2、兼1」に変更。
- ・教職課程認定申請において文部科学省と相談のうえ科目内容の見直しを行い、「教育心理学」の単位数を「2」から「1」に変更。
- ・教職課程認定申請において、新たに科目の設置が必要となる区分ができたために、文部科学省と相談のうえ「特別支援教育」を新設。
- ・教職課程認定申請において、新たに科目の設置が必要となる区分ができたために、文部科学省と相談のうえ、「特別活動及び総合的な学習の時間の指導法」を新設。
- ・授業内容、分担の見直しにより、「博物館学Ⅰ」の教員配置を「教授1、准教授1」から「教授2」に変更。
- ・授業内容、分担の見直しにより、「博物館学Ⅱ」の教員配置を「教授1、准教授1」から「准教授2」に変更。

- (注) ・ 2(1)一① 授業科目表に記入された各年度における変更内容(配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など)を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
  - ・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
13 科目	271 科目	39 科目	323 科目	13 科目 [0]	273 科目 [2]	37 科目 [△2]	323 科目 [0]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[ ]内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例: 1科目減の場合: △1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1	京野菜を栽培する (リベラルアーツ・ゼミナール)	1	1前	一般	選択	三大学教養教育共同化科目のため、提供元(京都三大学教養教育研究・推進機構)の事情により未開講となった。代替措置は行わないが、次年度は開講する予定。

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
  - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1	日本教育史	2	1前	一般	選択	教職課程認定申請において文部科学省と相談のうえ「教育原論」に科目を統合した。
2	環境論	2	1後	一般	選択	三大学教養教育共同化科目のため、提供元(京都三大学教養教育研究・推進機構)の事情により廃止となった。
3	産学連携ものづくり実践	4	3前	一般	選択	企業等とマッチングの結果、他のPBL科目に本科目の内容を含め開講することとなった。
4	現代社会と映画製作(リベラルアーツ・ゼミナール)	1	1前	一般	選択	三大学教養教育共同化科目のため、提供元(京都三大学教養教育研究・推進機構)の事情により廃止となった。
5	工業教育法	4	2前・後	一般	選択	工業の教員免許については、文部科学省に再課程認定の申請を行わないこととしたため、廃止することとした。
6	特別活動論	2	1前	一般	選択	教職課程認定申請において文部科学省と相談のうえ、本科目を廃止して「特別活動及び総合的な学習の時間の指導法」を新設することとした。
7	職業指導Ⅰ	2	1前	一般	選択	工業の教員免許については、文部科学省に再課程認定の申請を行わないこととしたため、廃止することとした。
8	職業指導Ⅱ	2	1後	一般	選択	工業の教員免許については、文部科学省に再課程認定の申請を行わないこととしたため、廃止することとした。

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止(教育課程から削除)した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

廃止科目の科目番号 1 及び 6 は、教職課程認定申請において、文部科学省と相談の上、科目の統合または新設をしたことにより、従前の科目を廃止することとした。

廃止科目の科目番号 5、7 及び 8 は、工業の教職課程認定を受けている他大学を調査したところ、デザインや建築以外の分野（機械、設計、電気、電子、材料、化学など）に関する専門科目を設置する必要があるということが判明し、デザイン・建築学課程の専門科目だけでは申請要件を満たさない可能性が高いことが判明したため、申請を行わず科目を廃止することとした。

他の科目は、教育プログラムの見直しにより未開講または廃止とした。ただし、新しく 8 科目を設置しているため、学生へ提供する教育プログラムは設置時より充実させている。

科目の変更等については履修要項（冊子）及びHPにより学生に周知を行っている。

(注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能なかぎり具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目 (3) と廃止科目 (4) の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計 (A)}} = \frac{9}{323} = \boxed{2.78} \%$$

(注) ・ 小数点以下第 3 位を切り捨て、小数点以下第 2 位まで表示されます。

・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3) 未開講科目」と「(4) 廃止科目」の合計数となるように留意してください。



### 3 施設・設備の整備状況, 経費

区 分		内 容				備考		
(1) 校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計			
	校舎敷地	132,505㎡	㎡	㎡	132,505㎡			
	運動場用地	18,658㎡	㎡	㎡	18,658㎡			
	小 計	151,163㎡	㎡	㎡	151,163㎡			
	そ の 他	62,240㎡	㎡	㎡	62,240㎡			
	合 計	213,403㎡	㎡	㎡	213,403㎡			
(2) 校舎	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	専攻単位では特定不能のため、申請大学全体の数			
	114,445㎡ ( ㎡)	㎡ ( ㎡)	㎡ ( ㎡)	114,445㎡ ( ㎡)				
(3) 教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	福知山キャンパスにおいて、実験室が整備されたため(元)		
	55室	44 39室	306 333室	7室 (補助職員14人)	5室 (補助職員8人)			
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称		室 数					
	工芸科学部 デザイン・建築学課程		52 53 室					
(5) 図書・設備	新設学部等の名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	専攻単位では特定不能のため、申請大学全体の数  新規購入・寄贈、除却による増減(29)(30)(元)
	工芸科学部・工芸科学研究科	<del>408,532 [161,174]</del> 410,861 [161,588]	<del>8,380 [5,363]</del> 8,400 [5,352]	<del>2,886 [2,827]</del> 2,889 [2,830]	1,601 1,605	4,474 4,741	886	
		( <del>408,532 [161,174]</del> 410,861 [161,588] )	( <del>8,380 [5,363]</del> 8,400 [5,352] )	( <del>2,886 [2,827]</del> 2,889 [2,830] )	( 1,601 1,605 )	( 4,474 4,741 )	( 886 )	
	計	<del>408,532 [161,174]</del> 410,861 [161,588]	<del>8,380 [5,363]</del> 8,400 [5,352]	<del>2,886 [2,827]</del> 2,889 [2,830]	1,601 1,605	4,474 4,741	886	
		( <del>408,532 [161,174]</del> 410,861 [161,588] )	( <del>8,380 [5,363]</del> 8,400 [5,352] )	( <del>2,886 [2,827]</del> 2,889 [2,830] )	( 1,601 1,605 )	( 4,474 4,741 )	( 886 )	
(6) 図書館	面 積	閱 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数				
	4,893㎡	546 548		426,139 428,500				
(7) 体育館	面 積	体育館以外のスポーツ施設の概要						
	1,772㎡	武 道 場 、 弓 場 テ ニ ス コ ー ト 6 面						
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度
		教員1人当り研究費等	千円	千円	図書購入費	千円	千円	千円
		共同研究費等	千円	千円	設備購入費	千円	千円	千円
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
		千円	千円	千円	千円	千円	千円	
学生納付金以外の維持方法の概要								

(注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)

- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨（所要時間・距離等）を「備考」に記入してください。
- ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和元年5月1日現在の数値を記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(元)」を「備考」に赤字で記入してください。  
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
- ・ 校舎等建物の計画の変更（校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延）がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。  
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、黒字で記入してください。
- ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大学 の 名 称	京都工芸繊維大学									備 考
既設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	定員変更 年度 (AC期間の 学科のみ)	開設 年度	所 在 地	
	年	人	年次	人		倍	年度	年度	年度	
工芸科学部									京都府京都市左 京区松ヶ崎橋上 町1番地	
応用生物学課程	4	50		200	学士(農学)	1.07	—	平成18年度 改組		
応用化学課程	4	169		676	学士(工学)	1.04	平成30	平成30年度	同上	
生体分子応用化学課程	4	—		—	学士(工学)	—	—	平成26年度 改称	同上	
高分子機能工学課程	4	—		—	学士(工学)	—	—	平成18年度 改組	同上	
物質工学課程	4	—		—	学士(工学)	—	—	平成18年度 改組	同上	
生体分子工学課程	4	—		—	学士(工学)	—	—	平成18年度 改組	同上	
電子システム工学課程	4	61		244	学士(工学)	1.08	—	平成18年度 改組	同上	
情報工学課程	4	61		244	学士(工学)	1.02	—	平成18年度 改組	同上	
機械工学課程	4	86		344	学士(工学)	1.03	—	平成27年度 改称	同上	
機械システム工学課程	4	—		—	学士(工学)	—	—	平成18年度 改組	同上	
デザイン・建築学課程	4	156		624	学士(工学)	1.02	平成30	平成30年度 設置	同上	
デザイン経営工学課程	4	—		—	学士(工学)	—	—	平成18年度 改組	同上	
デザイン・建築学課程	4	—		—	学士(工学)	—	—	平成26年度 改称	同上	
造形工学課程	4	—		—	学士(工学)	—	—	平成18年度 改組	同上	
上記課程共通			50	100						
先端科学技術課程	4	—		—	学士(工学)	—	—	平成18年度 改組	同上	
工芸科学研究科博士前期課程										
応用生物学専攻	2	40		80	修士(農学)	0.72	—	平成18年度 改組	同上	
材料創製化学専攻	2	33		66	修士(工学)	1.10	—	平成27年度 設置	同上	
材料制御化学専攻	2	32		64	修士(工学)	1.04	—	平成27年度 設置	同上	
物質合成化学専攻	2	33		66	修士(工学)	0.90	—	平成27年度 設置	同上	
機能物質化学専攻	2	32		64	修士(工学)	0.92	—	平成27年度 設置	同上	
電子システム工学専攻	2	50		100	修士(工学)	1.11	—	平成18年度 改組	同上	
情報工学専攻	2	46		92	修士(工学)	1.10	—	平成18年度 改組	同上	
機械システム工学専攻	2	—		—	修士(工学)	—	—	平成18年度 改組	同上	
機械物理学専攻	2	37		74	修士(工学)	0.95	—	平成27年度 設置	同上	
機械設計学専攻	2	30		60	修士(工学)	1.06	—	平成27年度 設置	同上	
デザイン学専攻	2	45		90	修士(工学)	1.09	平成30	平成30年度 設置	同上	
デザイン経営工学専攻	2	—		—	修士(工学)	—	—	平成18年度 改組	同上	
造形工学専攻	2	—		—	修士(工学)	—	—	平成18年度 改組	同上	
建築設計学専攻	2	—		—	修士(工学)	—	—	平成18年度 改組	同上	

デザイン学専攻	2	—	—	修士（工学）	—	—	平成26年度設置	同上
建築学専攻	2	71	142	修士（工学）又は（建築設計学）	1.08	—	平成26年度設置	同上
京都工芸繊維大学・チェンマイ大学国際連携建築学専攻	2	4	8	修士（学術）	0.75	平成29	平成29年度設置	同上
先端ファイブロ科学専攻	2	35	70	修士（工学）	0.86	—	平成18年度改組	同上
バイオベースマテリアル学専攻	2	22	44	修士（工学）	0.72	—	平成22年度設置	同上
工芸科学研究科博士後期課程								
生命物質科学専攻	3	—	—	博士（学術）又は（工学）	—	—	平成18年度改組	同上
バイオテクノロジー専攻	3	6	18	博士（学術）	1.44	—	平成27年度設置	同上
物質・材料化学専攻	3	13	39	博士（学術）又は（工学）	0.76	—	平成27年度設置	同上
電子システム工学専攻	3	5	15	博士（学術）又は（工学）	0.40	—	平成27年度設置	同上
設計工学専攻	3	10	30	博士（学術）又は（工学）	0.76	—	平成18年度改組	同上
造形科学専攻	3	—	—	博士（学術）又は（工学）	—	—	平成18年度改組	同上
デザイン学専攻	3	5	15	博士（学術）又は（工学）	0.80	—	平成26年度設置	同上
建築学専攻	3	7	21	博士（学術）又は（工学）	0.76	—	平成26年度設置	同上
先端ファイブロ科学専攻	3	8	24	博士（学術）又は（工学）	1.12	—	平成18年度改組	同上
バイオベースマテリアル学専攻	3	6	18	博士（工学）	0.44	—	平成24年度設置	同上

- （注）・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学（大学院含む）、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校種ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。（専攻科及び別科を除く）。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。  
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
  - ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
  - ・「平均入学定員超過率」の考え方は「大学設置等に係る提出書類の作成の手引き（平成31年度改訂版）」と同じです。
  - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。







専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
専任	教授	米田 明 <平成30年4月> 修士(建築学), 修士(工学)	米田 明 <平成30年4月> 修士(建築学), 修士(工学)
専任	教授	池側 隆之 <平成30年4月> 博士(学術)	池側 隆之 <平成30年4月> 博士(学術)
専任	准教授	大田 省一 <平成30年4月> 博士(工学)	大田 省一 <平成30年4月> 博士(工学)
専任	准教授	角田 暁治 <平成30年4月> 博士(工学)	角田 暁治 <平成30年4月> 博士(工学)
専任	准教授	勝本 雅和 <平成30年4月> 修士(学術)	勝本 雅和 <平成30年4月> 修士(学術)
専任	准教授	金尾 伊織 <平成30年4月> 博士(学術)	金尾 伊織 <平成30年4月> 博士(学術)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
専任	教授	米田 明 <平成30年4月> 修士(建築学), 修士(工学)	米田 明 <平成30年4月> 修士(建築学), 修士(工学)
専任	教授	池側 隆之 <平成30年4月> 博士(学術)	池側 隆之 <平成30年4月> 博士(学術)
専任	准教授	大田 省一 <平成30年4月> 博士(工学)	大田 省一 <平成30年4月> 博士(工学)
専任	准教授	角田 暁治 <平成30年4月> 博士(工学)	角田 暁治 <平成30年4月> 博士(工学)
専任	准教授	勝本 雅和 <平成30年4月> 修士(学術)	勝本 雅和 <平成30年4月> 修士(学術)
専任	教授	金尾 伊織 <平成30年4月> 博士(学術)	金尾 伊織 <平成30年4月> 博士(学術)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
専任	教授	米田 明 <平成30年4月> 修士(建築学), 修士(工学)	米田 明 <平成30年4月> 修士(建築学), 修士(工学)
専任	教授	池側 隆之 <平成30年4月> 博士(学術)	池側 隆之 <平成30年4月> 博士(学術)
専任	准教授	大田 省一 <平成30年4月> 博士(工学)	大田 省一 <平成30年4月> 博士(工学)
専任	准教授	角田 暁治 <平成30年4月> 博士(工学)	角田 暁治 <平成30年4月> 博士(工学)
専任	准教授	勝本 雅和 <平成30年4月> 修士(学術)	勝本 雅和 <平成30年4月> 修士(学術)
専任	教授	金尾 伊織 <平成30年4月> 博士(学術)	金尾 伊織 <平成30年4月> 博士(学術)



専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専任	准教授	木谷 庸二 <平成30年4月> 博士(芸術工学)
		<ul style="list-style-type: none"> <li>京の伝統工芸-技と美</li> <li>プロジェクトデザインI</li> <li>プロジェクトデザインII</li> <li>プロジェクトデザインIII</li> <li>プロジェクトデザインIV</li> <li>デザインマネジメント</li> <li>ソーシャルインタラクションデザイン概論</li> <li>デザイン・建築基礎実習</li> <li>デザイン・建築表現実習</li> <li>ソーシャルインタラクションデザイン演習</li> <li>デザイン・建築学演習</li> <li>卒業研究</li> <li>卒業プロジェクト</li> </ul>
専任	准教授	阪田 弘一 <平成30年4月> 博士(工学)
		<ul style="list-style-type: none"> <li>建築計画II</li> <li>建築測量演習</li> <li>建築計画演習</li> <li>建築設計製図I</li> <li>建築設計製図II</li> <li>建築設計製図III</li> <li>ソーシャルインタラクションデザイン概論</li> <li>デザイン・建築基礎実習</li> <li>デザイン・建築表現実習</li> <li>デザイン・建築学演習</li> <li>卒業研究</li> <li>卒業プロジェクト</li> </ul>
専任	准教授	芝池 英樹 <平成30年4月> 博士(工学)
		<ul style="list-style-type: none"> <li>建築設計実習I</li> <li>建築設計実習II</li> <li>建築設計実習III</li> <li>建築設計実習IV</li> <li>環境調整I</li> <li>建築環境工学演習</li> <li>建築設計製図I</li> <li>建築設計製図II</li> <li>建築設計製図III</li> <li>ソーシャルインタラクションデザイン概論</li> <li>デザイン・建築基礎実習</li> <li>デザイン・建築表現実習</li> <li>デザイン・建築学演習</li> <li>卒業研究</li> <li>卒業プロジェクト</li> </ul>
専任	准教授	清水 重敏 <平成30年4月> 博士(工学)
		<ul style="list-style-type: none"> <li>工芸科学基礎</li> <li>文化財学</li> <li>京のまち</li> <li>建築設計実習IV</li> <li>日本建築史</li> <li>都市・建築遺産論</li> <li>伝統建築演習</li> <li>建築設計製図I</li> <li>建築設計製図II</li> <li>建築設計製図III</li> <li>文化財学</li> <li>ソーシャルインタラクションデザイン概論</li> <li>デザイン・建築基礎実習</li> <li>デザイン・建築表現実習</li> <li>デザイン・建築学演習</li> <li>卒業研究</li> <li>卒業プロジェクト</li> </ul>

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専任	准教授	木谷 庸二 <平成30年4月> 博士(芸術工学)
		<ul style="list-style-type: none"> <li>京の伝統工芸-技と美</li> <li>プロジェクトデザインI</li> <li>プロジェクトデザインII</li> <li>プロジェクトデザインIII</li> <li>プロジェクトデザインIV</li> <li>デザインマネジメント</li> <li>ソーシャルインタラクションデザイン概論</li> <li>デザイン・建築基礎実習</li> <li>デザイン・建築表現実習</li> <li>ソーシャルインタラクションデザイン演習</li> <li>デザイン・建築学演習</li> <li>卒業研究</li> <li>卒業プロジェクト</li> </ul>
専任	教授	阪田 弘一 <平成30年4月> 博士(工学)
		<ul style="list-style-type: none"> <li>建築設計実習I</li> <li>建築設計実習II</li> <li>建築設計実習III</li> <li>建築設計実習IV</li> <li>建築計画I</li> <li>建築計画II</li> <li>建築測量演習</li> <li>建築計画演習</li> <li>建築設計製図I</li> <li>建築設計製図II</li> <li>建築設計製図III</li> <li>ソーシャルインタラクションデザイン概論</li> <li>デザイン・建築基礎実習</li> <li>デザイン・建築表現実習</li> <li>デザイン・建築学演習</li> <li>卒業研究</li> <li>卒業プロジェクト</li> </ul>
専任	准教授	芝池 英樹 <平成30年4月> 博士(工学)
		<ul style="list-style-type: none"> <li>建築設計実習I</li> <li>建築設計実習II</li> <li>建築設計実習III</li> <li>建築設計実習IV</li> <li>環境調整I</li> <li>建築環境工学演習</li> <li>建築設計製図I</li> <li>建築設計製図II</li> <li>建築設計製図III</li> <li>ソーシャルインタラクションデザイン概論</li> <li>デザイン・建築基礎実習</li> <li>デザイン・建築表現実習</li> <li>デザイン・建築学演習</li> <li>卒業研究</li> <li>卒業プロジェクト</li> </ul>
専任	教授	清水 重敏 <平成30年4月> 博士(工学)
		<ul style="list-style-type: none"> <li>工芸科学基礎</li> <li>文化財学</li> <li>京のまち</li> <li>建築設計実習I</li> <li>建築設計実習II</li> <li>建築設計実習III</li> <li>建築設計実習IV</li> <li>日本建築史</li> <li>都市・建築遺産論</li> <li>伝統建築演習</li> <li>建築設計製図I</li> <li>建築設計製図II</li> <li>建築設計製図III</li> <li>文化財学</li> <li>ソーシャルインタラクションデザイン概論</li> <li>デザイン・建築基礎実習</li> <li>デザイン・建築表現実習</li> <li>デザイン・建築学演習</li> <li>卒業研究</li> <li>卒業プロジェクト</li> </ul>

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専任	准教授	木谷 庸二 <平成30年4月> 博士(芸術工学)
		<ul style="list-style-type: none"> <li>京の伝統工芸-技と美</li> <li>プロジェクトデザインI</li> <li>プロジェクトデザインII</li> <li>プロジェクトデザインIII</li> <li>プロジェクトデザインIV</li> <li>デザインマネジメント</li> <li>ソーシャルインタラクションデザイン概論</li> <li>デザイン・建築基礎実習</li> <li>デザイン・建築表現実習</li> <li>ソーシャルインタラクションデザイン演習</li> <li>デザイン・建築学演習</li> <li>卒業研究</li> <li>卒業プロジェクト</li> </ul>
専任	教授	阪田 弘一 <平成30年4月> 博士(工学)
		<ul style="list-style-type: none"> <li>京都の防災と府民</li> <li>建築設計実習I</li> <li>建築設計実習II</li> <li>建築設計実習III</li> <li>建築設計実習IV</li> <li>建築計画I</li> <li>建築計画II</li> <li>住環境計画</li> <li>建築測量演習</li> <li>建築計画演習</li> <li>建築設計製図I</li> <li>建築設計製図II</li> <li>建築設計製図III</li> <li>ソーシャルインタラクションデザイン概論</li> <li>デザイン・建築基礎実習</li> <li>デザイン・建築表現実習</li> <li>デザイン・建築学演習</li> <li>卒業研究</li> <li>卒業プロジェクト</li> </ul>
専任	准教授	芝池 英樹 <平成30年4月> 博士(工学)
		<ul style="list-style-type: none"> <li>建築設計実習I</li> <li>建築設計実習II</li> <li>建築設計実習III</li> <li>建築設計実習IV</li> <li>環境調整I</li> <li>建築環境工学演習</li> <li>建築設計製図I</li> <li>建築設計製図II</li> <li>建築設計製図III</li> <li>ソーシャルインタラクションデザイン概論</li> <li>デザイン・建築基礎実習</li> <li>デザイン・建築表現実習</li> <li>デザイン・建築学演習</li> <li>卒業研究</li> <li>卒業プロジェクト</li> </ul>
専任	准教授	SUSHI SUZUKI (鈴木篤史) <平成31年2月> Master of Science in Mechanical Engineering
		<ul style="list-style-type: none"> <li>リーダーシップ基礎I-地域連携プロジェクト</li> <li>リーダーシップ基礎II</li> <li>ソーシャルインタラクションデザイン演習</li> <li>プロジェクトデザインI</li> <li>プロジェクトデザインII</li> <li>プロジェクトデザインIII</li> <li>プロジェクトデザインIV</li> <li>ソーシャルインタラクションデザイン概論</li> <li>デザイン・建築基礎実習</li> <li>デザイン・建築表現実習</li> <li>デザイン・建築学演習</li> <li>卒業研究</li> <li>卒業プロジェクト</li> </ul>
専任	教授	清水 重敏 <平成30年4月> 博士(工学)
		<ul style="list-style-type: none"> <li>工芸科学基礎</li> <li>文化財学</li> <li>京のまち</li> <li>建築設計実習I</li> <li>建築設計実習II</li> <li>建築設計実習III</li> <li>建築設計実習IV</li> <li>日本建築史</li> <li>都市・建築遺産論</li> <li>伝統建築演習</li> <li>建築設計製図I</li> <li>建築設計製図II</li> <li>建築設計製図III</li> <li>文化財学</li> <li>ソーシャルインタラクションデザイン概論</li> <li>デザイン・建築基礎実習</li> <li>デザイン・建築表現実習</li> <li>デザイン・建築学演習</li> <li>卒業研究</li> <li>卒業プロジェクト</li> </ul>





専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専任	講師	岩本 馨 <平成30年4月> 博士(工学)
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・京のまち</li> <li>・都市史Ⅰ</li> <li>・建築測量演習</li> <li>・建築設計製図Ⅰ</li> <li>・建築設計製図Ⅱ</li> <li>・建築設計製図Ⅲ</li> <li>・ソーシャルインタラクションデザイン概論</li> <li>・デザイン・建築基礎実習</li> <li>・デザイン・建築表現演習</li> <li>・デザイン・建築学演習</li> <li>・卒業研究</li> <li>・卒業プロジェクト</li> </ul>
専任	講師	北口 紗織 <平成30年4月> Ph.D
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・プロジェクトデザインⅠ</li> <li>・プロジェクトデザインⅡ</li> <li>・プロジェクトデザインⅢ</li> <li>・プロジェクトデザインⅣ</li> <li>・感覚工学</li> <li>・ソーシャルインタラクションデザイン概論</li> <li>・デザイン・建築基礎実習</li> <li>・デザイン・建築表現演習</li> <li>・ソーシャルインタラクションデザイン演習</li> <li>・デザイン・建築学演習</li> <li>・卒業研究</li> <li>・卒業プロジェクト</li> </ul>

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専任	准教授	岩本 馨 <平成30年4月> 博士(工学)
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・京のまち</li> <li>・建築設計実習Ⅰ</li> <li>・建築設計実習Ⅱ</li> <li>・建築設計実習Ⅲ</li> <li>・建築設計実習Ⅳ</li> <li>・都市史Ⅰ</li> <li>・建築測量演習</li> <li>・建築設計製図Ⅰ</li> <li>・建築設計製図Ⅱ</li> <li>・建築設計製図Ⅲ</li> <li>・ソーシャルインタラクションデザイン概論</li> <li>・デザイン・建築基礎実習</li> <li>・デザイン・建築表現演習</li> <li>・デザイン・建築学演習</li> <li>・卒業研究</li> <li>・卒業プロジェクト</li> </ul>
専任	講師	北口 紗織 <平成30年4月> Ph.D
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・プロジェクトデザインⅠ</li> <li>・プロジェクトデザインⅡ</li> <li>・プロジェクトデザインⅢ</li> <li>・プロジェクトデザインⅣ</li> <li>・エンジニアリング概説</li> <li>・感覚工学</li> <li>・ソーシャルインタラクションデザイン概論</li> <li>・デザイン・建築基礎実習</li> <li>・デザイン・建築表現演習</li> <li>・デザイン・建築学演習</li> <li>・ソーシャルインタラクションデザイン演習</li> <li>・卒業研究</li> <li>・卒業プロジェクト</li> </ul>

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専任	准教授	岩本 馨 <平成30年4月> 博士(工学)
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・京都の防災と府民</li> <li>・京のまち</li> <li>・建築設計実習Ⅰ</li> <li>・建築設計実習Ⅱ</li> <li>・建築設計実習Ⅲ</li> <li>・建築設計実習Ⅳ</li> <li>・都市史Ⅰ</li> <li>・建築測量演習</li> <li>・建築設計製図Ⅰ</li> <li>・建築設計製図Ⅱ</li> <li>・建築設計製図Ⅲ</li> <li>・ソーシャルインタラクションデザイン概論</li> <li>・デザイン・建築基礎実習</li> <li>・デザイン・建築表現演習</li> <li>・デザイン・建築学演習</li> <li>・卒業研究</li> <li>・卒業プロジェクト</li> </ul>
専任	講師	北口 紗織 <平成30年4月> Ph.D
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・プロジェクトデザインⅠ</li> <li>・プロジェクトデザインⅡ</li> <li>・プロジェクトデザインⅢ</li> <li>・プロジェクトデザインⅣ</li> <li>・エンジニアリング概説</li> <li>・感覚工学</li> <li>・ソーシャルインタラクションデザイン概論</li> <li>・デザイン・建築基礎実習</li> <li>・デザイン・建築表現演習</li> <li>・デザイン・建築学演習</li> <li>・ソーシャルインタラクションデザイン演習</li> <li>・卒業研究</li> <li>・卒業プロジェクト</li> </ul>





専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
	担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名	
		三村 充 <平成30年4月> 博士(工学)			三村 充 <平成30年4月> 博士(工学)			三村 充 <平成30年4月> 博士(工学)
専任	助教	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報リテラシー概論</li> <li>・プロジェクトデザインⅠ</li> <li>・プロジェクトデザインⅡ</li> <li>・プロジェクトデザインⅢ</li> <li>・プロジェクトデザインⅣ</li> <li>・エンジニアリング概説</li> <li>・CAD/CG実習</li> <li>・情報処理演習</li> <li>・ソーシャルインタラクションデザイン概論</li> <li>・デザイン・建築基礎実習</li> <li>・デザイン・建築表現演習</li> <li>・ソーシャルインタラクションデザイン演習</li> <li>・デザイン・建築学演習</li> <li>・卒業研究</li> <li>・卒業プロジェクト</li> </ul>	専任	助教	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報リテラシー概論</li> <li>・プロジェクトデザインⅠ</li> <li>・プロジェクトデザインⅡ</li> <li>・プロジェクトデザインⅢ</li> <li>・プロジェクトデザインⅣ</li> <li>・エンジニアリング概説</li> <li>・CAD/CG実習</li> <li>・情報処理演習</li> <li>・ソーシャルインタラクションデザイン概論</li> <li>・デザイン・建築基礎実習</li> <li>・デザイン・建築表現演習</li> <li>・ソーシャルインタラクションデザイン演習</li> <li>・デザイン・建築学演習</li> <li>・卒業研究</li> <li>・卒業プロジェクト</li> </ul>	専任	助教	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報リテラシー概論</li> <li>・プロジェクトデザインⅠ</li> <li>・プロジェクトデザインⅡ</li> <li>・プロジェクトデザインⅢ</li> <li>・プロジェクトデザインⅣ</li> <li>・エンジニアリング概説</li> <li>・CAD/CG実習</li> <li>・<b>デザインプラクティスⅡ</b></li> <li>・情報処理演習</li> <li>・ソーシャルインタラクションデザイン概論</li> <li>・デザイン・建築基礎実習</li> <li>・デザイン・建築表現演習</li> <li>・ソーシャルインタラクションデザイン演習</li> <li>・デザイン・建築学演習</li> <li>・卒業研究</li> <li>・卒業プロジェクト</li> </ul>
		三宅 拓也 <平成30年4月> 博士(学術)			三宅 拓也 <平成30年4月> 博士(学術)			三宅 拓也 <平成30年4月> 博士(学術)
専任	助教	<ul style="list-style-type: none"> <li>・建築設計実習Ⅳ</li> <li>・現代美術館学</li> <li>・建築測量演習</li> <li>・建築設計製図Ⅰ</li> <li>・建築設計製図Ⅱ</li> <li>・建築設計製図Ⅲ</li> <li>・ソーシャルインタラクションデザイン概論</li> <li>・デザイン・建築基礎実習</li> <li>・デザイン・建築表現演習</li> <li>・ソーシャルインタラクションデザイン演習</li> <li>・デザイン・建築学演習</li> <li>・卒業研究</li> <li>・卒業プロジェクト</li> </ul>	専任	助教	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>建築設計実習Ⅰ</b></li> <li>・<b>建築設計実習Ⅱ</b></li> <li>・<b>建築設計実習Ⅲ</b></li> <li>・建築設計実習Ⅳ</li> <li>・現代美術館学</li> <li>・建築測量演習</li> <li>・建築設計製図Ⅰ</li> <li>・建築設計製図Ⅱ</li> <li>・建築設計製図Ⅲ</li> <li>・ソーシャルインタラクションデザイン概論</li> <li>・デザイン・建築基礎実習</li> <li>・デザイン・建築表現演習</li> <li>・ソーシャルインタラクションデザイン演習</li> <li>・デザイン・建築学演習</li> <li>・卒業研究</li> <li>・卒業プロジェクト</li> </ul>	専任	助教	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>建築設計実習Ⅰ</b></li> <li>・<b>建築設計実習Ⅱ</b></li> <li>・<b>建築設計実習Ⅲ</b></li> <li>・建築設計実習Ⅳ</li> <li>・現代美術館学</li> <li>・建築測量演習</li> <li>・建築設計製図Ⅰ</li> <li>・建築設計製図Ⅱ</li> <li>・建築設計製図Ⅲ</li> <li>・ソーシャルインタラクションデザイン概論</li> <li>・デザイン・建築基礎実習</li> <li>・デザイン・建築表現演習</li> <li>・ソーシャルインタラクションデザイン演習</li> <li>・デザイン・建築学演習</li> <li>・卒業研究</li> <li>・卒業プロジェクト</li> </ul>

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください)。  
 ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。  
 ・ 「認可時又は届出時」には、設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。  
 ・ その上で、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字としてください。**  
 ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る届出書類作成の手引き」の「教員名簿」を確認してください。  
 ・ 年齢は、**それぞれの年度の5月1日時点の満年齢**を記入してください。  
 ・ 専任(専門職大学等は専、実専、実(研)、実(実)、兼任、兼任の順に記入してください)。  
 ・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除し、詰めてください。

(1) 一②担当教員表に関する変更内容

【平成30年度】

- ・池側准教授、金尾准教授、阪田准教授、清水准教授が教授に昇任（教員審査省略）
- ・岩本講師が准教授に昇任（教員審査省略）
- ・佐々木講師、北尾助教が就任辞退（自己都合退職）
- ・小島助教を採用（教員審査省略）

【令和元年度】

- ・北口講師、村本講師が准教授に昇任（教員審査省略）
- ・満田教授、SUZUKI准教授、壺谷准教授、JAEHYUN准教授を採用（教員審査省略）
- ・鈴木教授、宮里教授が定年退職
- ・矢ヶ崎准教授が辞任（自己都合退職）

- (注) ・ 変更内容を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
  - ・ 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度（平成29年度開設であれば平成28年度）の表は適宜削除してください。



(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要専 任教員数	うち、完成年度時 における設置基準上 の必要教授数
11 名	6 名

(注) ・ 大学設置基準第十三条別表第一、短期大学設置基準第二十二條別表第一イにより算出される専任教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員数【大学】

設置時の計画					現在（報告時）の状況				
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (A)	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (B)
22	16	6	11	55	20	18	2	11	51
( 21 )	( 13 )	( 5 )	( 11 )	( 50 )					
現在（報告時）の完成年度時の状況					現在（報告時）の完成年度時の計画				
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (C)	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (D)
20	18	2	12	52	22	16	6	11	55
[ Δ2 ]	[ 2 ]	[ Δ4 ]	[ 1 ]	[ Δ3 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]

- (注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、( ) 内に開設時の状況を記入してください。  
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。  
 ・ 「**現在（報告時）の完成年度時の状況**」には、「**現在（報告時）の状況**」に記入した数字に、**教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入**するとともに、[ ] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）  
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[ ] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記 (B)）の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数	完成年度時（上記 (C)）の教員う ち、定年を延長し て採用する教員数
65 歳	0 名	0 名

- (注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、および、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。  
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。  
 [ ] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{52}{55} = \boxed{94.54} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{0}{51} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) -① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由			
1	講師	佐々木 厚司	H30.3	選択	建築計画Ⅱ	①	H30.3.31 他大学に異動のため就任辞退（30）			
				選択	環境デザイン論	①				
				選択	建築計画演習	①				
				選択	ゾーシャルインタラクションデザイン概論	①				
				選択	デザイン・建築基礎実習	①				
				選択	デザイン・建築表現演習	①				
				選択	ゾーシャルインタラクションデザイン演習	①				
				選択	デザイン・建築学演習	①				
				必修	卒業研究	①				
2	助教	北尾 聡子	H30.3	選択	建築設計実習Ⅳ	①	H30.3.31 他大学に異動のため就任辞退（30）			
				選択	建築構造材料実験	①				
				選択	ゾーシャルインタラクションデザイン概論	①				
				選択	デザイン・建築基礎実習	①				
				選択	デザイン・建築表現演習	①				
				選択	ゾーシャルインタラクションデザイン演習	①				
				選択	デザイン・建築学演習	①				
				必修	卒業研究	①				
				必修	卒業プロジェクト	①				
合計（D）				後任補充状況の集計（E）						
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）		①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）		
2	人	必修	4	科目	必修	4	科目	必修	0	科目
		選択	15	科目	選択	15	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	19	科目	計	19	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。  
 ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) -②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。  
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。  
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」  
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」  
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) -② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由			
1	准教授	矢ヶ崎 善太郎	H31.3	選択	京のまち	①	H31.3.31付け、他大学に異動のため辞任（元）			
				選択	建築設計実習Ⅰ	①				
				選択	建築設計実習Ⅱ	①				
				選択	建築設計実習Ⅲ	①				
				選択	建築設計実習Ⅳ	①				
				選択	日本建築史	①				
				選択	建築測量演習	①				
				選択	伝統建築演習	①				
				選択	建築設計製図Ⅰ	①				
				選択	建築設計製図Ⅱ	①				
				選択	建築設計製図Ⅲ	①				
				必修	ゾーシャルインタラクションデザイン概論	①				
				必修	デザイン・建築基礎実習	①				
				選択	デザイン・建築表現演習	①				
				選択	デザイン・建築学演習	①				
				必修	卒業研究	①				
必修	卒業プロジェクト	①								
合計（F）				後任補充状況の集計（G）						
辞任した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）		①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）		
1	人	必修	4	科目	必修	4	科目	必修	0	科目
		選択	13	科目	選択	13	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	17	科目	計	17	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について記入してください。  
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。  
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・専任教員が担当する（している）場合は「①」  
 ・兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」  
 ・後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ③ 上記(3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計(D) + (F)			後任補充状況の集計(E) + (G)									
辞任等した教員数	担当科目数の合計(a) + (b) + (c)			①の合計数(a)		②の合計数(b)		③の合計数(c)				
3 人	必修	8	科目	必修	8	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
	選択	28	科目	選択	28	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
	計	36	科目	計	36	科目	計	0	科目	計	0	科目

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計}(D) + (F)}{(2) - ② \text{設置時の計画}(A)} = \frac{3}{55} = \boxed{5.45} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由						
1	教授	鈴木 克彦	選択	建築設計実習Ⅰ	①	H31.3.31付け65歳で定年退職(元)						
			選択	建築設計実習Ⅱ	①							
			選択	建築設計実習Ⅲ	①							
			選択	建築設計実習Ⅳ	①							
			選択	建築計画Ⅰ	①							
			選択	住環境計画	①							
			選択	建築計画演習	①							
			選択	建築設計製図Ⅰ	①							
			選択	建築設計製図Ⅱ	①							
			選択	建築設計製図Ⅲ	①							
			必修	ソシヤルインテラクシヨナデザイン概論	①							
			必修	デザイン・建築基礎実習	①							
			選択	デザイン・建築表現演習	①							
			選択	デザイン・建築学演習	①							
必修	卒業研究	①										
必修	卒業プロジェクト	①										
2	教授	宮里 勉	選択	プロジェクトデザインⅠ	①	H31.3.31付け65歳で定年退職(元)						
			選択	プロジェクトデザインⅡ	①							
			選択	プロジェクトデザインⅢ	①							
			選択	プロジェクトデザインⅣ	①							
			選択	エンジニアリング概説	①							
			選択	CAD/CG実習	①							
			必修	ソシヤルインテラクシヨナデザイン概論	①							
			必修	デザイン・建築基礎実習	①							
			選択	デザイン・建築表現演習	①							
			選択	ソシヤルインテラクシヨナデザイン演習	①							
			選択	デザイン・建築学演習	①							
			必修	卒業研究	①							
			必修	卒業プロジェクト	①							
			合計				後任補充状況の集計					
辞任した教員数	担当科目数の合計(a) + (b) + (c)			①の合計数(a)		②の合計数(b)		③の合計数(c)				
2 人	必修	8	科目	必修	8	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
	選択	21	科目	選択	21	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
	計	29	科目	計	29	科目	計	0	科目	計	0	科目

(注) ・ 定年により退職した全ての専任教員について記入してください。  
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および( )書きで報告年度を記入してください。  
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・専任教員が担当する（している）場合は「①」  
 ・兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」  
 ・後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

辞任教員及び定年退職教員が担当予定であった全ての科目について他の専任教員が担当しており、学生指導に不足はない状態であり、学生に対しては、教科課程公表の際に当該教員が退職した旨周知している。

(注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能なかぎり具体的に記入してください。

## 6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今後の の実施計画
設 置 時 (平成29年)	該当なし		
設置計画履行状況 調 査 時 (平成30年)	入学定員超過の改善に 努めること	改善意見	履行済

平成30年度設置計画履行状況等調査において、本学が提出した「京都工芸繊維大学工学部応用化学課程及びデザイン・建築学課程【事前伺い】設置に係る設置計画履行状況報告書」の「1 調査対象大学等の概要等(5)―②調査対象学部等の入学者の状況」及び「4 AC対象学部等を含む大学等の状況」において、デザイン・建築学課程(平成30年度設置)の平均入学定員超過率を誤った数値(1.40倍、1.47倍)で記載していたため、実際には平均入学定員超過率の基準内の入学状況(1.04倍)であったが、基準を超過したことによる指摘事項(改善)が付されるに至った。  
平成31年度の定員超過率についても、1.01倍と基準内となっている。

【添付資料あり】

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項(学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。)と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
  - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
  - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
  - ・ 「設置計画履行状況調査時」には、調査結果が公表された年度の年を記入してください。

## 7 その他全般的事項

<工芸科学部 デザイン・建築学課程>

### (1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
特になし	

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

### (2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

#### ① 実施体制

##### a 委員会の設置状況

本学では、教育システム全般について包括的に調査・分析し、企画、立案、実施する組織として、総合教育センターを設置しています。  
総合教育センターは、教育プログラム部会、教育評価・FD部会、地域連携教育部会の3部会を統括しており、FD活動の実施や検討及び審議に関しては、教育評価・FD部会が中心的な役割を担っています。

##### b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

平成30年度は、次のとおり教育評価・FD部会を開催しました。

平成30年7月31日(火)

議題

1. 総合教育センター 教育評価・FD部会の組織及び業務内容等について
2. 平成30年度年度計画について
3. 平成30年度FD事業一覧、スケジュールについて
4. 平成30年度第1回教員FD研修会の実施について
5. 「総合教育センター教育評価・FD部会報告書2017」の原稿確認について
6. 大学院博士前期課程（修士課程）へのGPA導入について

報告

1. 平成29年度FD事業報告について
2. 平成30年度FD事業について

平成31年1月30日(水)

議題

1. 平成30年度 第2回 教員FD研修会について

報告

1. 平成30年度 第1回 教員FD研修会実施報告について【報告資料1】
2. 平成30年度FD事業報告について
3. 高等教育段階の教育費負担軽減新制度への対応について

なお、部会構成員は次のとおりであり、部会の出席率はほぼ100%です。

総合教育センター副センター長	1名
各副学域長	7名
各副課程長	11名
各副専攻長	13名
各副学科目長	3名
学務課長	1名
学長が指名する者	若干名
合計	36名+若干名

c 委員会の審議事項等

教育評価・FD部会の審議事項は次のとおりです。

- (1) 教育実態及び教育成果の調査方法の検討に関すること
- (2) 授業評価の実施及び分析に関すること
- (3) 教育改善についての研修会・講演会等の実施(新人教員の研修を含む)に関すること
- (4) 授業公開の実施及び分析に関すること
- (5) 教育懇談会、卒業生・修了生調査協力者会議の実施に関すること
- (6) 成績評価法の研究に関すること
- (7) 大学評価室との連携に関すること
- (8) 教育に対する自己点検・自己評価に関すること
- (9) その他関連事項

② 実施状況

a 実施内容

- (1) 授業公開
- (2) 担当授業科目アンケート
- (3) 教員FD研修会
- (4) 大学コンソーシアム京都主催の各種FD連携活動への参画

b 実施方法

- (1) 教員相互の授業参観(授業公開)
- (2) 教員による担当授業科目アンケート
- (3) 教員FD研修会
- (4) 大学コンソーシアム京都主催の各種FD連携活動への参画

c 開催状況(教員の参加状況含む)

(1) 授業公開

- ・ 毎学期(前学期は6月、後学期は12月)、学部・大学院の全授業科目を対象として実施
- ・ 参観後は参観者・授業担当者双方がレポートを提出

■前学期/春学期の授業公開

実施期間：平成30年5月28日～6月22日

参観科目数：36科目

参観者数(延べ人数)：42名

■後学期/秋学期の授業公開

実施期間：平成30年11月12日～12月7日

参観科目数：38科目

参観者数(延べ人数)：46名

(2) 担当授業科目アンケート

- ・ 『受講者確認/成績入力Webシステム』を利用し、毎学期の成績報告に合わせてWeb上で実施

■前学期/春学期の教員による授業評価

実施期間：平成30年7月2日～8月20日

アンケート回答科目数：324科目

アンケート回答教員数：210名

アンケート回答率(科目)：55.8%

アンケート回答率(教員)：75.0%

■後学期/秋学期の教員による授業評価

実施期間：平成31年1月9日～2月18日

アンケート回答科目数：302科目

アンケート回答教員数：181名

アンケート回答率(科目)：54.6%

アンケート回答率(教員)：64.6%

### (3) 教員FD研修会

#### ■平成30年度第1回教員FD研修会

開催日：平成30年11月22日（木）10：00～12：00

開催場所：本学

内容：第1部 海外教育連携事業における派遣教員による講演

内 容：海外大学において実施した教育活動の概要、海外大学と本学の教育方法の比較  
（参考にすべき点、本学の優れた点など）

講演者：繊維学系 麻生祐司先生、デザイン・建築学系 池側隆之先生

第2部 講演・パネルディスカッション「障害のある学生への「合理的配慮」

～発達障害・精神障害学生への有効な支援方法とは～

講演者：藤川洋子先生（司会）

門 眞一郎先生（精神科医）

水野 修先生（指導教員）

稲葉宏幸先生（研究担当教員） 他

参加者：74名

#### ■平成30年度第2回教員FD研修会

実施日時：平成31年3月8日（金）10：00～12：00

開催場所：本学

内容：第1部 Moodle等のネットワークサービスを用いた教育に関する講演

内 容：ネットワークサービスを活用した授業の例として、Webベースの学習管理システム  
Moodle、および授業を補足する解説動画の作成と使用例、さらに中丹地区社会人教育に  
おけるTV会議システムを使った授業について

講演者：電気電子工学系 島崎仁司先生、情報科学センター 森真幸先生

第2部 京都発人材育成エコシステムの創り方

内 容：大学界も経済界も新しい発想での人材育成の必要性について、NPO法人グローバル人材開発  
センターによる講演

講演者：特定非営利活動法人グローバル人材開発センター 事務局長

京都産業大学 法学研究科法政策学専攻 中谷 真憲 教授

参加者：62名

#### ■各課程・専攻等におけるFD研修

開催日：平成30年11月22日～平成31年1月31日

開催母体：各課程、独立専攻及び学科目（全14組織）

内容：第1回教員FD研修会で配付された資料を用いた情報共有や意見交換の実施。

参加者数（参加率）：169名（57.9%）

#### ■教員のFD活動参加率

265名（90.8%）

### (4) 大学コンソーシアム京都主催の各種FD連携活動への参画

#### ■大学コンソーシアム京都主催の各種FD連携活動への参画

(1) 新任教員FD合同研修

〔新任教員を対象とした授業デザインや成績評価のためのワークショップ〕

※本学では主な参加対象を採用後3年以内の教員としている

<第1回>

日 時：2018年9月29日（土）13：00～17：15

会 場：キャンパスプラザ京都 2階 ホール

テーマ：①「大学コミュニティについて」

講師：大学コンソーシアム京都事務局

②「FDの基礎知識－持続的な能力開発に向けて－」

講師：耳野 健二 氏（京都産業大学現代社会学部教授）

③「授業デザインのための基礎知識・ワークショップ」

講師：浅田 瞳 氏（華頂短期大学幼児教育学科准教授）

講師：岡本 信照 氏（京都外国語大学外国語学部教授）

<第2回>

日 時：2018年10月13日（土）13：00～18：00

会 場：キャンパスプラザ京都 5階 第2演習室

テーマ：「授業設計・授業実践ワークショップ」

講師：阿部 一晴 氏（京都光華女子大学キャリア形成学部教授）



<第3回>

日時：2018年11月12日（月）18：00～20：00  
会場：池坊短期大学 洗心館 6階 第1会議室  
テーマ：「成績評価のための基礎知識・ワークショップ」  
講師：藤原 学 氏（龍谷大学理工学部教授）

<第4回>

日時：2019年1月21日（月）18：00～20：00  
会場：池坊短期大学 洗心館 6階 第1会議室  
テーマ：「学習支援・特別支援ワークショップ」  
講師：村田 淳 氏（京都大学学生総合支援センター准教授）

<第5回>

日時：2019年2月4日（月）18：00～20：00  
会場：池坊短期大学 洗心館 6階 第1会議室  
テーマ：「学習者中心の授業ワークショップ」  
講師：澤田 美恵子 氏（京都工芸繊維大学基盤科学系教授）  
講師：松本 真治 氏（佛教大学文学部教授）  
講師：森 希理恵 氏（平安女学院大学短期大学部保育科准教授）

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

(1) 授業公開

授業公開は平成16年度から実施しており、参加者数向上のために、都度対象科目の拡大や実施期間の延長等の策を講じています。

レポートのコメントからも、参観する、あるいは参観される教員双方にとって、自らの授業方法を改めて見つめ直す端緒となり、また、関連する授業科目間の連携や補完関係を深めるための契機となっています。

(2) 担当授業科目アンケート

教員による担当授業科目アンケートは、平成20年1月に平成19年度開講授業担当者を対象に試行で実施し、その結果を踏まえ、平成20年度前学期からは毎学期末に実施しています。

平成22年度からは『受講者確認／成績入力システム』（Webシステム）を利用して、教員が担当科目の成績を報告（入力）する際に、あわせてアンケートに回答する仕組みを導入したため、回答率が大幅に向上し、以後高い水準を維持しています。

アンケートに回答する教員自身の振り返りや気づきになると共に、アンケート集計結果をWeb上で学内に公開することで、授業への有効な取り組み方について情報共有を図っています。

(3) 教員FD研修会

本学では、長年にわたって大学教育の質の向上を目的としたFD活動を行っており、その取り組みの一環として毎年教員FD研修会を開催しています。

近年、参加者数が40名程度にとどまっていたことから、平成27年度より、アンケート等で教員から要望のあったテーマを基に、年2回開催することとしました。結果的にほぼ全ての教員組織から毎回60名を超える参加があり、学内的に大きな広がりを見せました。

特に、FD部会委員（副課程長、副専攻長、副学科目長）をリーダーとして、教員FD研修会で学んだ知識やノウハウについて、資料を用いて、課程、専攻、学科目内で二次的な研修会等を実施したところ、参加者数は約200名を記録し、FD活動への高い関心を示しています。

今後も、その時々教員のニーズやトピック的な事案をテーマとして、効果的な教育方法を検討するための一助となるような研修会を実施する必要があると考えています。

(4) 大学コンソーシアム京都主催の各種FD連携活動への参画

大学コンソーシアム京都では、単独では実施することが困難な体系的なFD研修プログラムの実施をはじめ、さまざまな実質的なFD取り組みを実現させるため、平成20年度文部科学省「戦略的FD連携支援事業」に採択された「地域内大学連携によるFDの包括研究と共通プログラム開発・組織的運用システムの確立」により佛教大学を代表校とする18大学・短期大学と共に京都地域におけるFD活動を推進してきました。

当該事業は平成23年度で補助金事業としては一旦終了しましたが、翌年度からはその事業成果を引き継ぎ、大学コンソーシアム加盟50大学での取組へと活動を広げていくことになりました。

特に新任教員には、大学コンソーシアム京都が主催する新任教員FD合同研修プログラムの受講を推奨しており、受講者からは「大変有意義な研修であった」「他大学の教員との交流が刺激になった」等、肯定的な感想が多く見受けられます。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

■実施の有無

本学では、平成15年度から学生による授業評価アンケートを実施しています。

■実施時期

前（春）学期：平成30年7月9日～10月10日

後（秋）学期：平成31年1月9日～4月11日

b 教員や学生への公開状況、方法等

■実施方法

本学では平成28年度より、紙媒体でのアンケートを廃止し、Web方式に移行しました。授業評価アンケートに回答していれば、当該学期の成績が確認出来る仕組みを構築したため、90%を超える高い回答率を維持しています。

加えて、事前準備、集計作業に伴う業務負担の軽減や費用の削減、教員や学生に対する早期の集計結果フィードバック、欠席者のアンケートが集計可能になるなど、多くの成果が上がりました。

平成30年度の実施状況は次のとおりです。

(1) 前（春）学期

対象科目：すべての開講科目

アンケート回答科目数：学部 654科目

大学院 297科目

合計 951科目

アンケート回答率（科目）：学部 97.2%

大学院 79.9%

合計 91.0%

(2) 後（秋）学期

対象科目：すべての開講科目

アンケート回答科目数：学部 613科目

大学院 254科目

合計 867科目

アンケート回答率（科目）：学部 94.89%

大学院 83.01%

合計 91.07%

■公開状況

集計結果は、次の方法で教員や学生に公開しています。

【学務課ホームページ（学生・教職員専用ページ）】

- ・回答率や全設問の回答平均値（科目名・担当教員名も公開）

【担当教員へのフィードバック】

- ・科目毎の集計表（各設問評価毎の人数、グラフなど）
- ・科目毎の回答一覧表（回答者毎の回答内訳）

【FD報告書に掲載（隔年発行）】

- ・全体回答平均値経年推移
- ・科目分類別（全学共通/専門基礎・導入/課程専門）全体平均値

(注) ・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

該当なし

#### (4) 自己点検・評価等に関する事項

##### ① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

現在の社会のデザインへの期待は、「意匠（モノの造形）」にとどまらず、プロダクト・グラフィック・建築空間・都市といった既存領域を越え、人工知能・ビッグデータ・IoTなどを活用した新たな複合サービス、つまり人・社会系のモノ・コトの創造にまで高まっている。それは、社会的課題の解決手段としてのデザインへの需要の高まりであり、多様な社会ニーズへの対応能力がデザイナーに求められている。この社会背景のもと、デザイン思考を駆使し、新たなサービス価値を創出する、あるいはそういったビジネスやコミュニティ環境を構築する人材育成を目指し、既存のデザイン・建築学課程とデザイン経営工学課程を統合し、新たなデザイン・建築学課程を設置した。これにより、既存デザイン専門領域の教育・研究を垂直深化と同時に、社会状況分析や社会実装化といった社会接合分野の教育・研究の水平展開を重ねることが可能となり、本新課程においては、未来社会をリードする統合的デザイン教育を実践する。上記の設置の趣旨・目的のもとでの達成状況に関する総括評価・所見は、以下のようである。

##### 1. 学生の志願状況について

二年目を迎えたデザイン・建築学課程に対して学生を募集した一般入試（平成30年度実施）の志願状況は以下のとおりであり、入学定員（156名）は充足している。

・一般入試（前期日程） 募集人員91、出願者数452（出願倍率4.9）、受験者数442（受験倍率4.85）

・一般入試（後期日程） 募集人員38、出願者数236（出願倍率6.2）、受験者数120（受験倍率3.15）

一般入試（前期日程）及び一般入試（後期日程）において、出願倍率、受験倍率ともに3倍程度以上であり、順調であると言える。

##### 2. 教育方法について

従来のデザイン領域に加え、ビジネス系、テクノロジー系教員も参加した授業群（ソーシャルインタラクションデザイン概論、デザイン・建築基礎実習、ソーシャルインタラクションデザイン演習）を1年次から配当し、統合的なデザイン思考を醸成する基盤教育を開始した。設置決定後から、異なる旧課程を担当していた教員全員参加によるカリキュラム検討会議を重ね、具体的な教育コンテンツ、授業運営の方法等の詳細を詰めてきた。1年次の授業実施状況の分析を詳細に行い、31年度1年次授業のさらなる改善、および2年次以降の授業の周到準備に活用した。

##### 3. 実施状況について

平成30年度は、計画通り実習および演習授業、講義を進めた。1年次の学生たちにとっては、前期は導入科目として、従来のデザイン、建築に加え、ビジネス、テクノロジーの内容を学ぶことになったため忙しくなったものの、非常に充実した期間となった。後期には学生たちの希望をもとに建築コース100名、デザインコース63名に分け、専門教育の基礎を学ばせた。デザインコースにおいては、幅広い視点でデザインについて考察する視点へと導くことが可能となり、本計画は概ね順調に進んでいる。

##### ② 自己点検・評価報告書

###### a 公表（予定）時期

・平成30年3月 公表

###### b 公表方法

・大学ホームページ上に公開

##### ③ 認証評価を受ける計画

・平成33年度に評価機関（大学改革支援・学位授与機構）の評価を受けるべく、学内で検討中。

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

#### (5) 情報公表に関する事項

##### ○ 設置計画履行状況報告書（令和元年度）

a ホームページへの公表予定の有無 (  有 ・  無 )

b 公表有の場合の公表（予定）時期 ( 令和元年6月末 )

b 公表無の場合の特段の理由 ( )

(注) ・ 今後公表する予定の場合は、「有」にマルを記入してください。今後も公表する予定がない場合は、「無」にマルを記入してください。